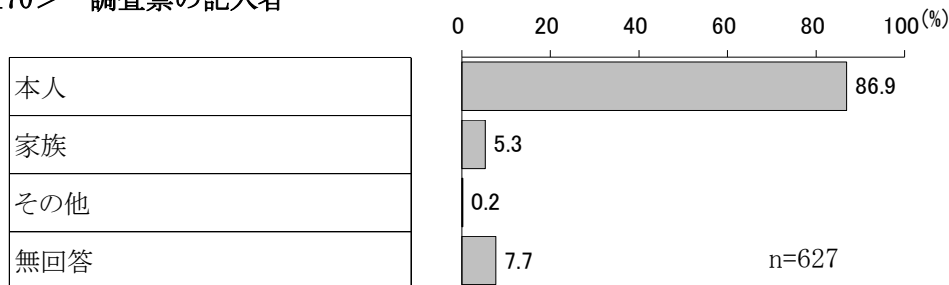


2-3 第2号被保険者調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表 170> 調査票の記入者



②現在の状況（本人の不在の事情）

<図表 171> 現在の状況（本人の不在の事情）

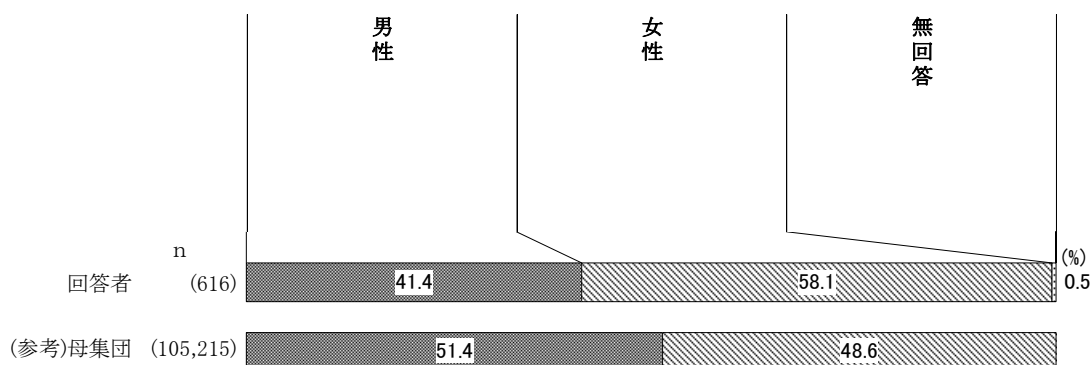
調査数	本人の不在の事情（記入が難しい場合の状況）					非該当
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	
627	1	-	5	-	5	616

以下、記入のあった616人に対する集計結果を示す。

③性別

<図表 172> 性別（母集団との比較）

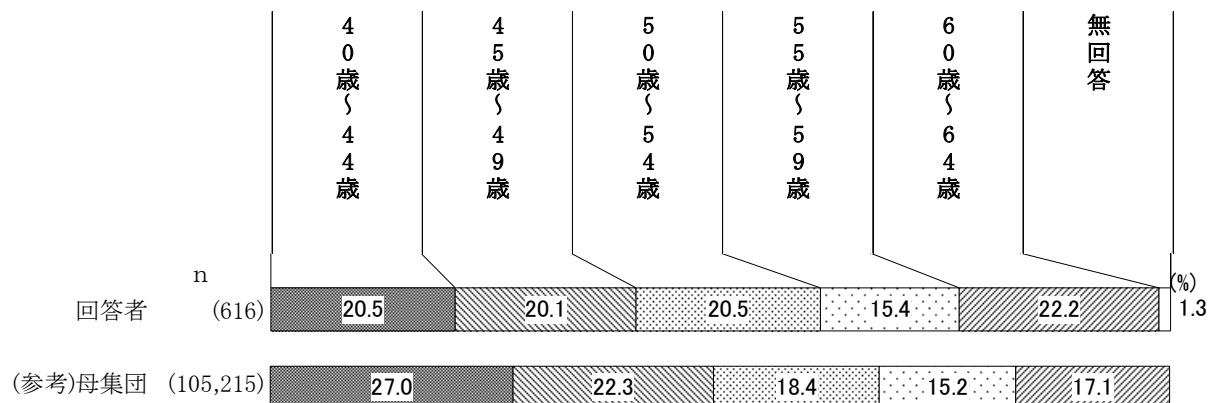
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
男性	255	41.4	54,099	51.4
女性	358	58.1	51,116	48.6
(無回答)	3	0.5		
合計	616	100.0	105,215	100.0



④年齢

<図表 173> 年齢（母集団との比較）

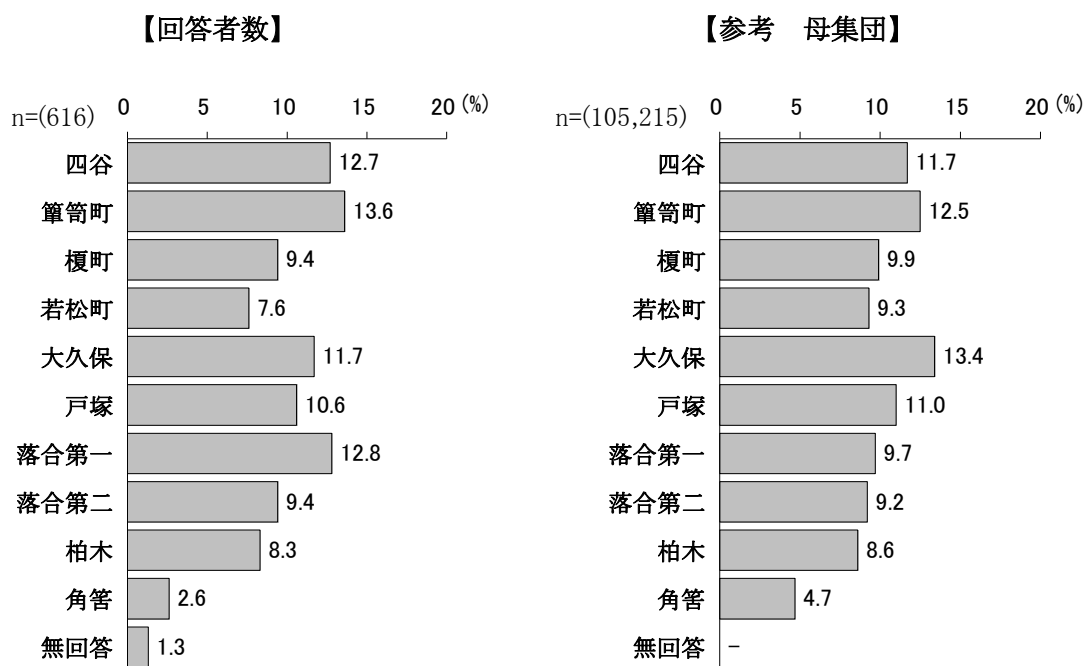
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
40歳～44歳	126	20.5	28,426	27.0
45歳～49歳	124	20.1	23,499	22.3
50歳～54歳	126	20.5	19,313	18.4
55歳～59歳	95	15.4	16,000	15.2
60歳～64歳	137	22.2	17,977	17.1
(無回答)	8	1.3		
合計	616	100.0	105,215	100.0



⑤お住まいの地区

<図表 174> お住まいの地区（母集団との比較）

項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
四谷	78	12.7	12,261	11.7
箆笥町	84	13.6	13,144	12.5
榎町	58	9.4	10,444	9.9
若松町	47	7.6	9,740	9.3
大久保	72	11.7	14,109	13.4
戸塚	65	10.6	11,623	11.0
落合第一	79	12.8	10,237	9.7
落合第二	58	9.4	9,652	9.2
柏木	51	8.3	9,010	8.6
角筈	16	2.6	4,995	4.7
(無回答)	8	1.3		
合計	616	100.0	105,215	100.0

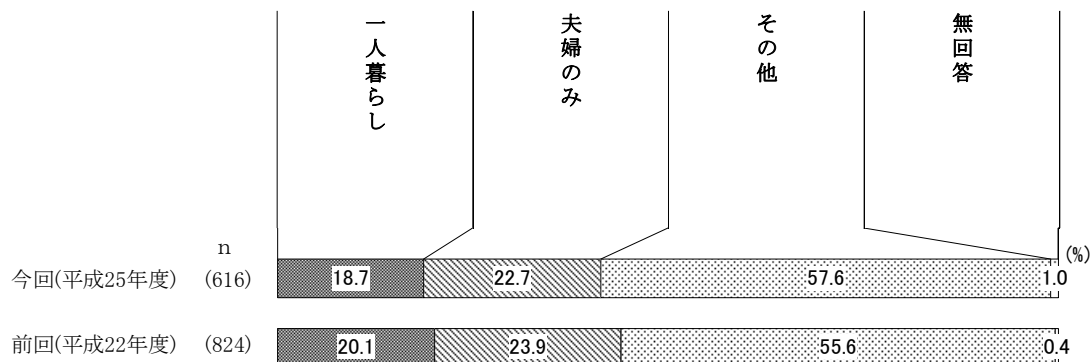


⑥世帯構成

問4 あなたの世帯の構成をお選びください。(1つに○)

※いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

<図表 175> 世帯構成 (経年比較)



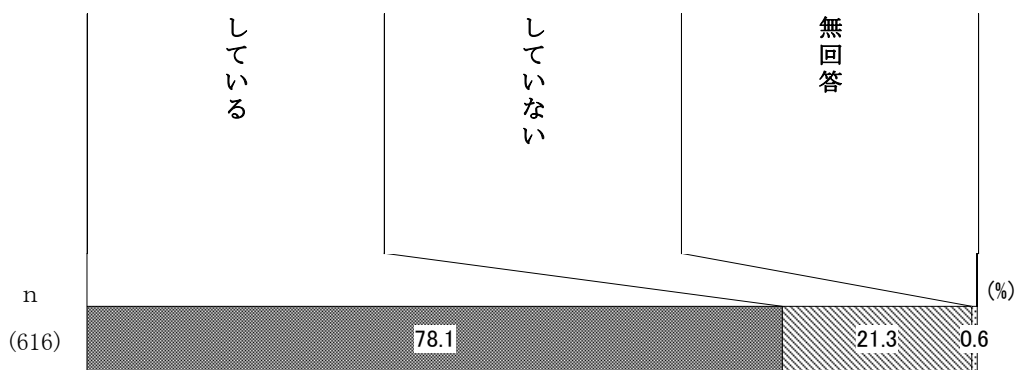
世帯構成をたずねたところ、「一人暮らし」(18.7%)は2割近く、「夫婦のみ」(22.7%)は2割強となっている。

経年比較でみると、前回調査と大きな差は見られない。

⑦就業状況

問5 あなたは、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

<図表 176> 就業状況

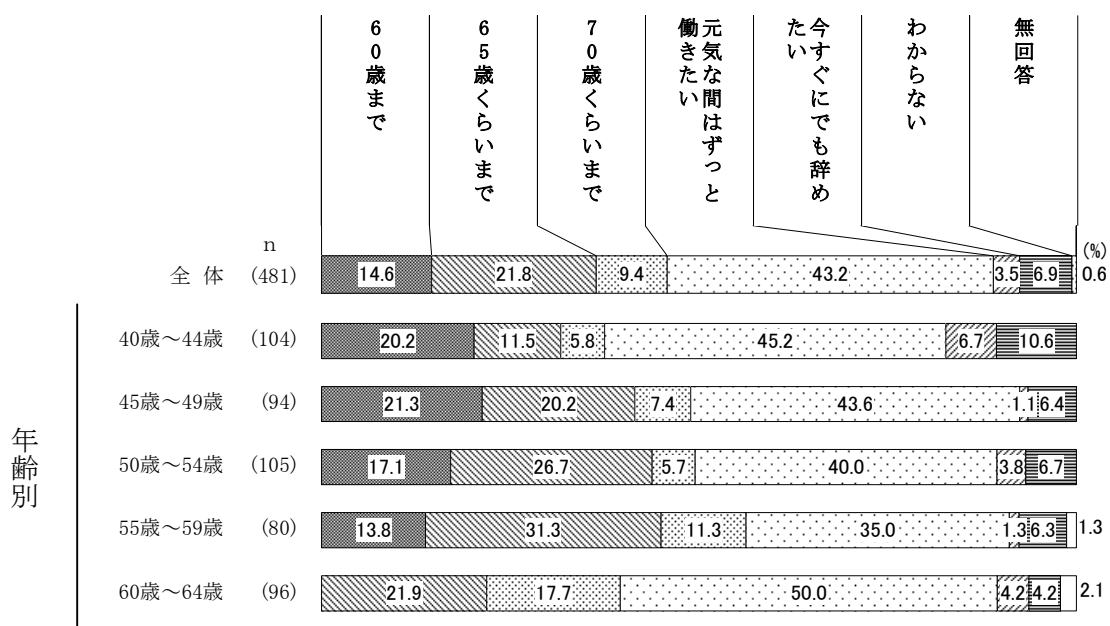


就業状況をたずねたところ、収入のある仕事を「している」(78.1%)は8割近く、「していない」(21.3%)は2割強となっている。

⑧仕事をしたい年齢の上限

問5-1 《問5で「1 している」と回答した方のみお答えください》
 何歳まで仕事をしたい（続けたい）ですか。（1つに○）

<図表 177> 仕事をしたい年齢の上限（年齢別）



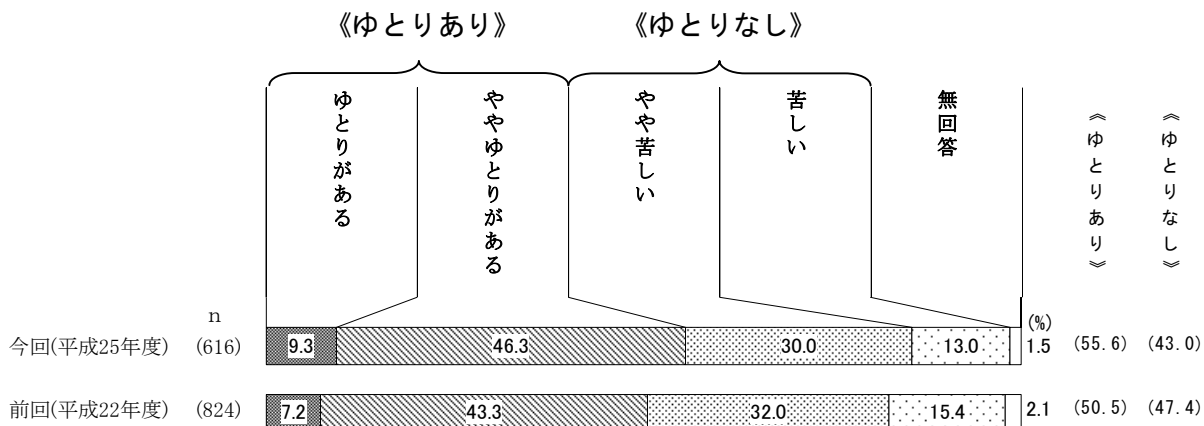
問5で「している」と回答した人に何歳まで仕事をしたい（続けたい）かたずねたところ、「元気な間はずっと働きたい」（43.2%）が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「65歳くらいまで」（21.8%）が2割強となっている。

年齢別でみると、「元気な間はずっと働きたい」は、60歳～64歳（50.0%）で5割と高くなっている。

⑨現在の暮らし向き

問6 あなたは、あなたの現在の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表 178> 現在の暮らし向き (経年比較)



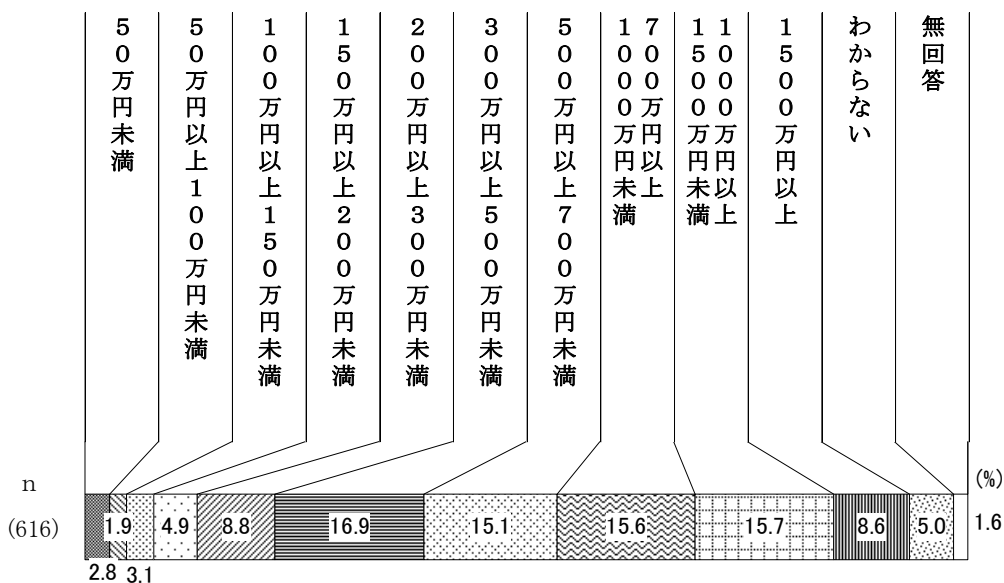
現在の暮らし向きについてたずねたところ、「ややゆとりがある」(46.3%)が4割台半ばを超え最も高く、次いで、「やや苦しい」(30.0%)が3割となっている。

経年比較でみると、《ゆとりあり》は、前回調査に比べ、5.1ポイント高くなっている。

⑩昨年1年間の自身と家族の年間収入総額

問7 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか。(1つに○)

<図表 179> 昨年1年間の自身と家族の年間収入総額

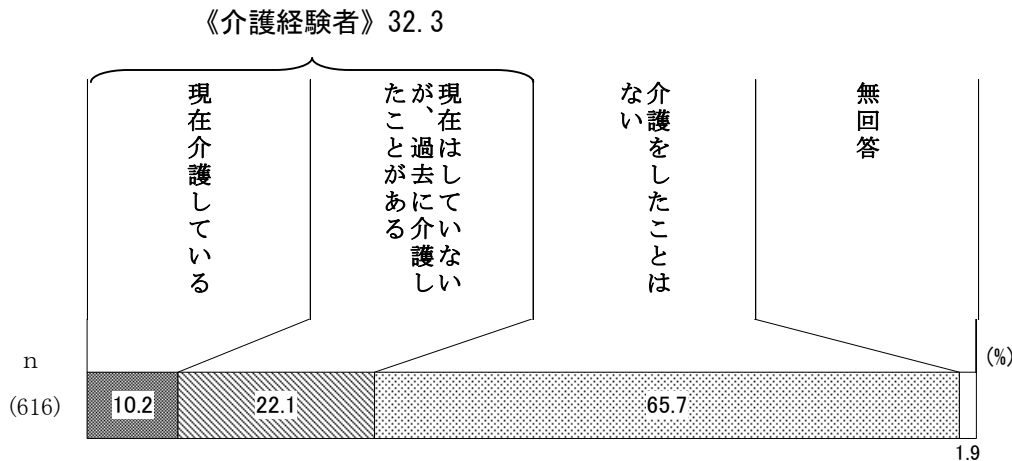


昨年1年間の自身と家族の年間収入総額についてたずねたところ、「300万円以上500万円未満」(16.9%)が1割半ばを超え最も高くなっている。

⑪家族等の高齢者の介護の経験

問8 あなたは、ご家族等の高齢者の介護をしたことがありますか。(1つに○)

<図表 180> 家族等の高齢者の介護の経験

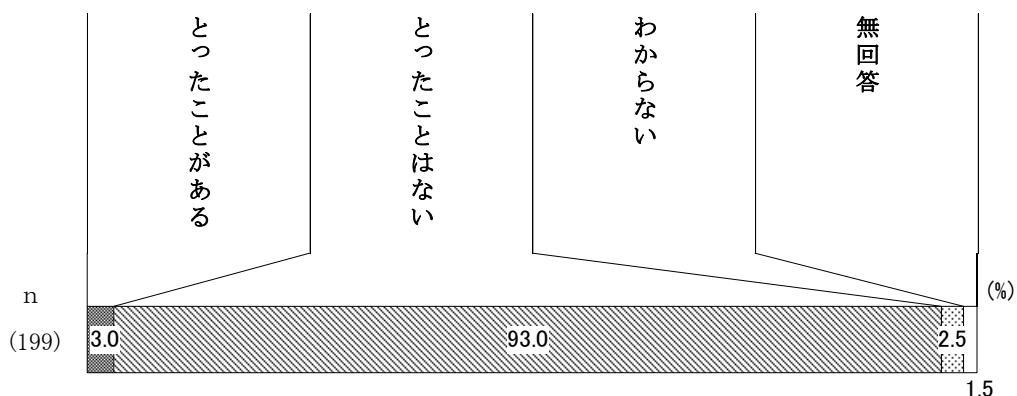


家族等の高齢者の介護経験をたずねたところ、「現在介護している」(10.2%)と「現在はしていないが、過去に介護したことがある」(22.1%)をあわせた《介護経験者》(32.3%)は3割強となっている。

⑫介護休業制度の利用経験

問8-1 《問8で「1」または「2」と回答した方のみお答えください》
介護休業制度をとったことはありますか。(1つに○)

<図表 181> 介護休業制度の利用経験



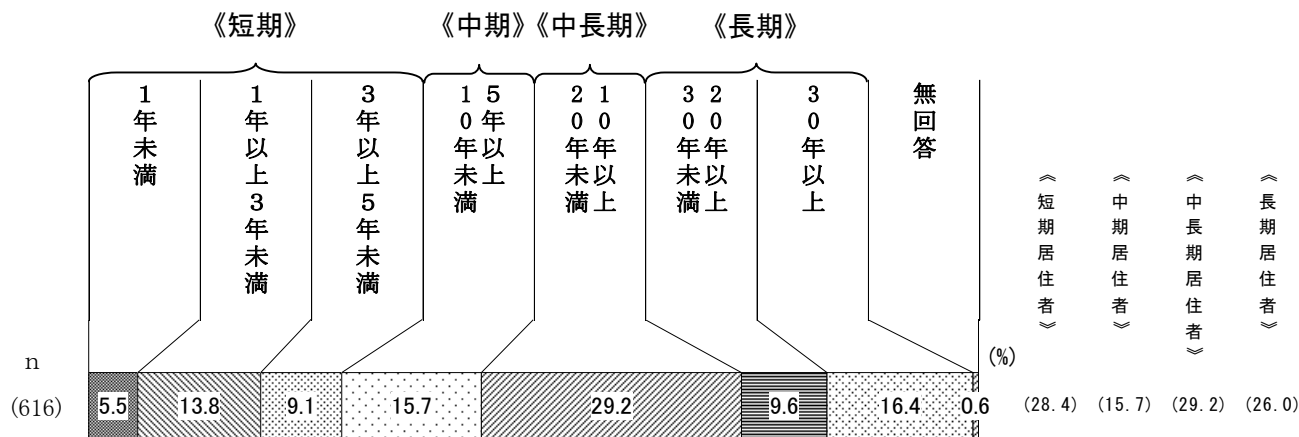
問8で「現在介護している」「現在はしていないが、過去に介護したことがある」と回答した人に介護休業制度の利用経験をたずねたところ、「とったことはない」(93.0%)が9割台半ば近くとなっている。

(2) お住まいについて

① 居住年数

問9 あなたは、現在のお住まいに何年住んでいますか。(1つに○)

<図表 182> 居住年数

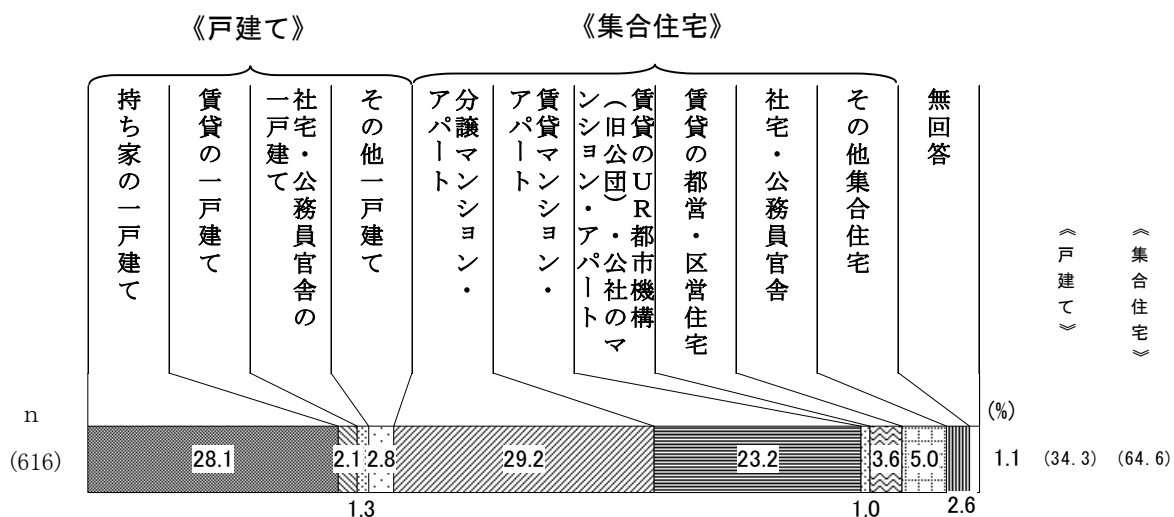


居住年数についてたずねたところ、「10年以上20年未満」(29.2%)が3割弱で最も高くなっている。

② 住まいの形態

問10 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 183> 住まいの形態



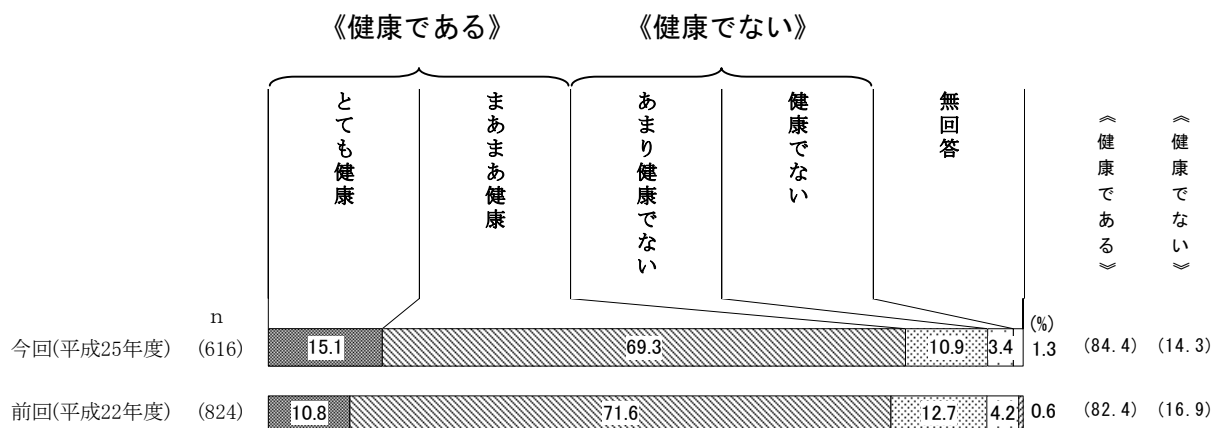
住まいの形態についてたずねたところ、「分譲マンション・アパート」(29.2%)が3割弱で最も高く、次いで、「持ち家の一戸建て」(28.1%)、「賃貸マンション・アパート」(23.2%)となっている。《集合住宅》(64.6%)は6割台半ば近くとなっており、《戸建て》(34.3%)より30.3ポイント高くなっている。

(3) 健康状態などについて

①健康状態

問11 あなたは、健康だと思いますか。(1つに○)

<図表 184> 健康状態 (経年比較)



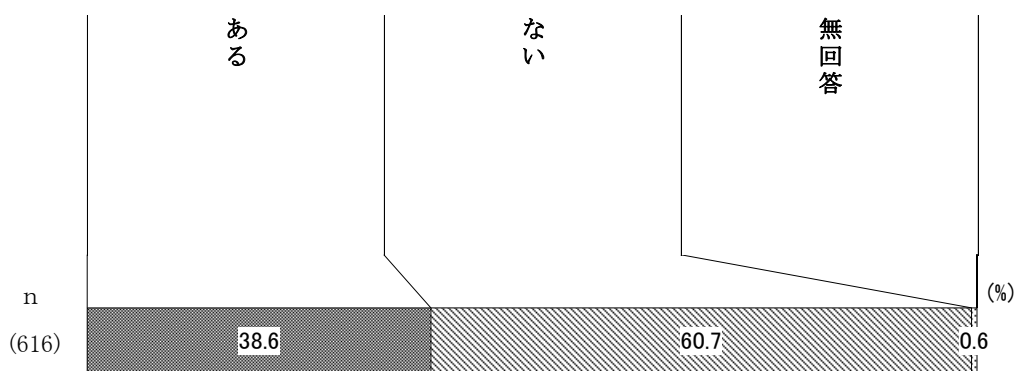
自身の健康状態についてたずねたところ、「まあまあ健康」(69.3%)が7割弱で最も高く、次いで、「とても健康」(15.1%)が1割台半ばである。

経年比較でみると、「とても健康」は、前回調査に比べ、4.3ポイント高くなっている。

②現在治療中の病気の有無

問12 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表 185> 現在治療中の病気の有無

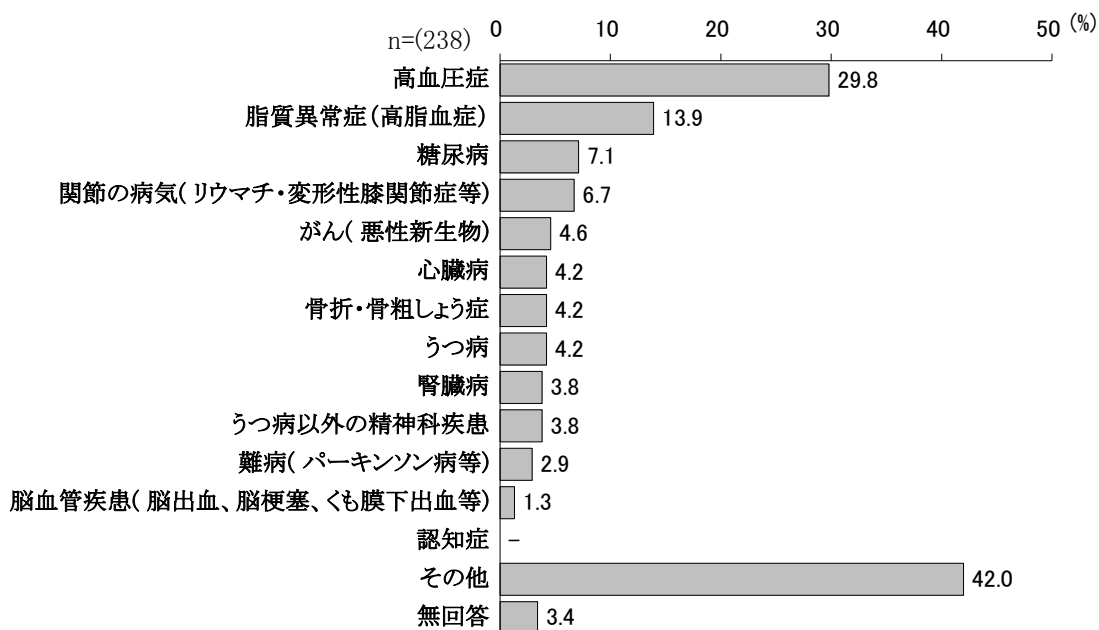


現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(38.6%)は4割近く、「ない」(60.7%)は約6割となっている。

③治療中の病気の種類

問12-1 《問12で「1 ある」と回答した方のみお答えください》
治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 186> 治療中の病気の種類

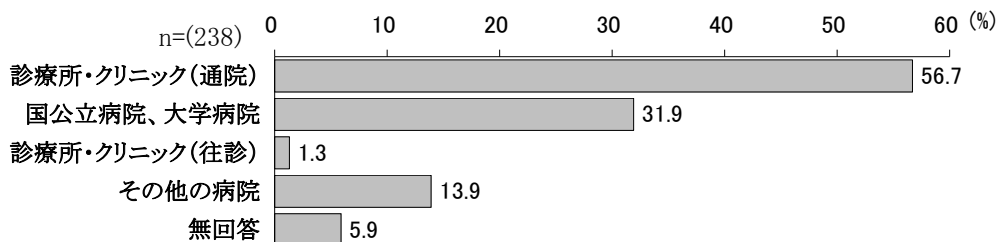


問12で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(29.8%)が3割弱で最も高くなっている。「その他」としては、眼の病気、呼吸器の病気、腎臓・尿器、食道・胃・腸の病気、腰痛といった内容が多くあげられた。

④受診している医療機関

問12-2 《問12で「1 ある」と回答した方のみお答えください》
受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 187> 受診している医療機関

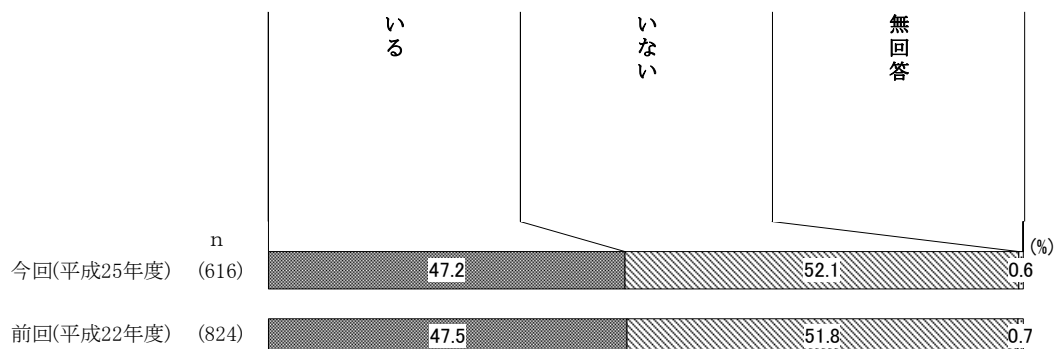


問12で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(56.7%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで、「国公立病院、大学病院」(31.9%)が3割強となっている。

⑤かかりつけ医の有無

問13 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所の「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

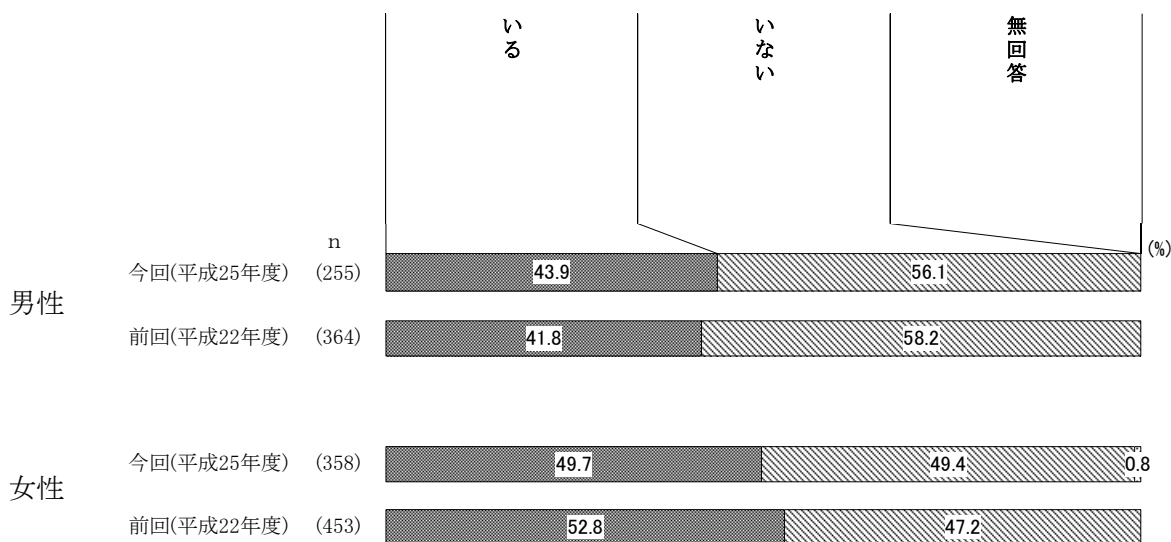
<図表 188> かかりつけ医の有無 (経年比較)



かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(47.2%)は4割台半ばを超え、「いない」(52.1%)は5割強となっている。

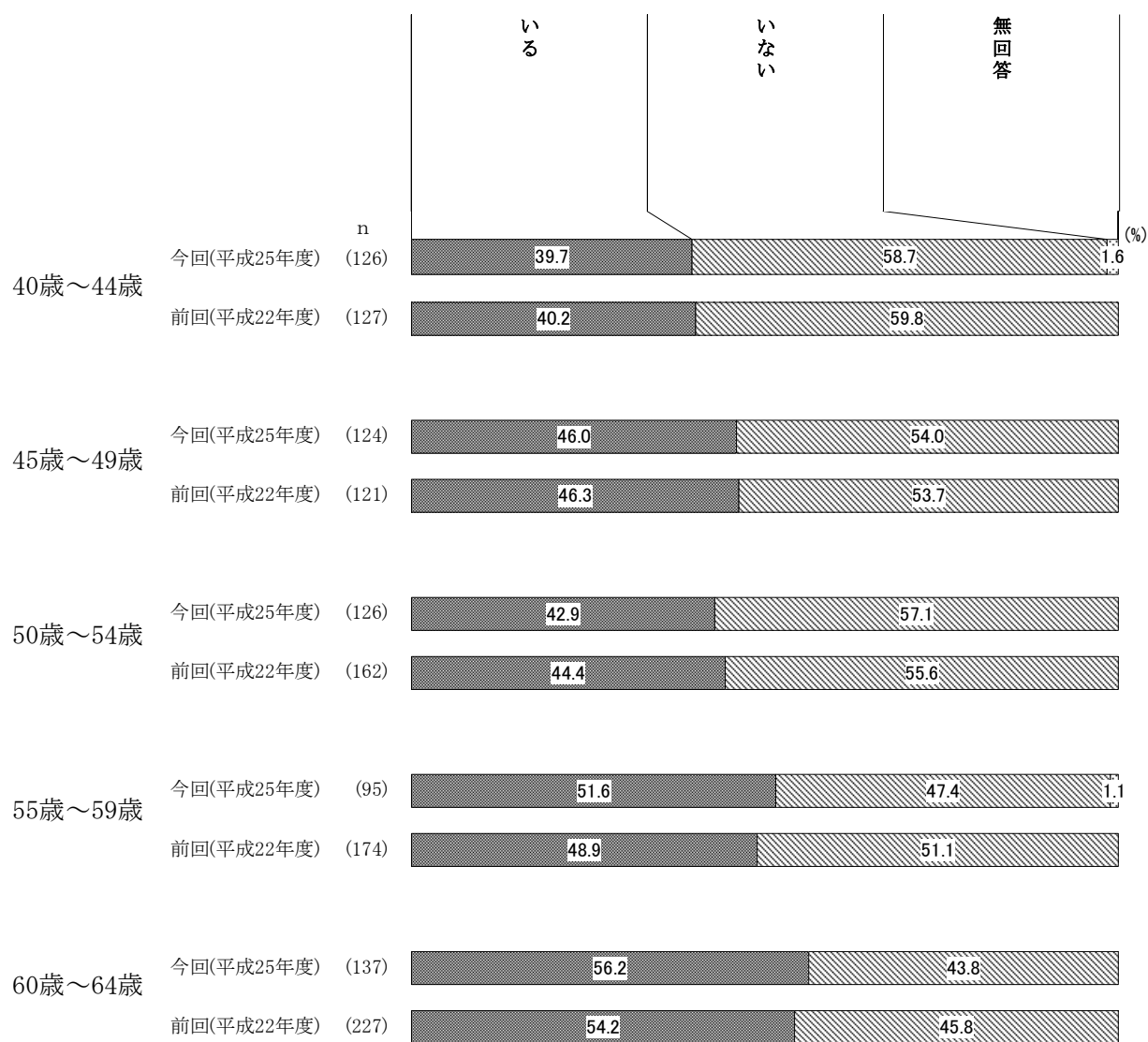
経年比較でみると、前回調査と大きな差は見られない。

<図表 189> かかりつけ医の有無 (性別/経年比較)



性別でみると、「いる」は、女性のほうが5.8ポイント高くなっている。

<図表 190> かかりつけ医の有無（年齢別/経年比較）



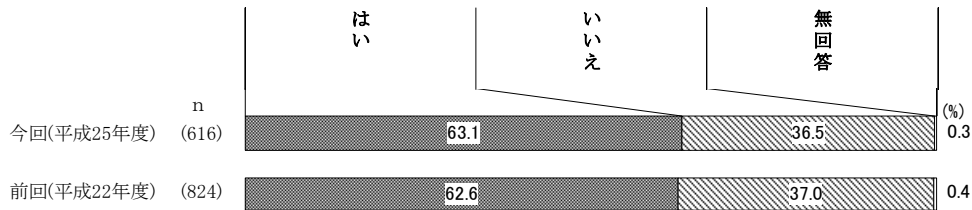
年齢別でみると、「いる」は、60歳～64歳（56.2%）と55歳～59歳（51.6%）で5割以上となっている。

⑥ 歯科について

問14 歯科についておたずねします。アからエまですべての質問にお答えください。
(それぞれ1つに○)

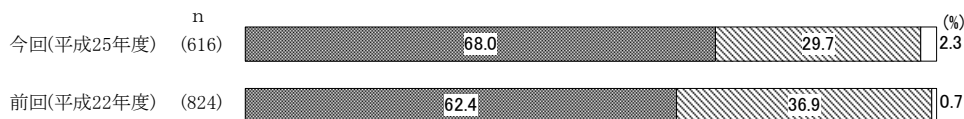
<図表 191> 歯科について (一部、経年比較)

ア. あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか



1年以内の歯科受診の有無をたずねたところ、「はい」(63.1%)は6割台半ば近くとなっている。経年比較でみると、前回調査と大きな差は見られない。

イ. あなたは、治療や予防のために気軽に受診できる「かかりつけ歯科医」がいますか



かかりつけ歯科医の有無をたずねたところ、「はい」(68.0%)は7割近くとなっている。経年比較でみると、「はい」は、前回調査より5.6ポイント高くなっている。

ウ. あなたは、硬い物が食べにくいですか



硬いものの食べにくさの有無をたずねたところ、「はい」(18.8%)は2割近くとなっている。

エ. あなたは、要介護高齢者等を往診してくれる歯科医院があることを知っていますか



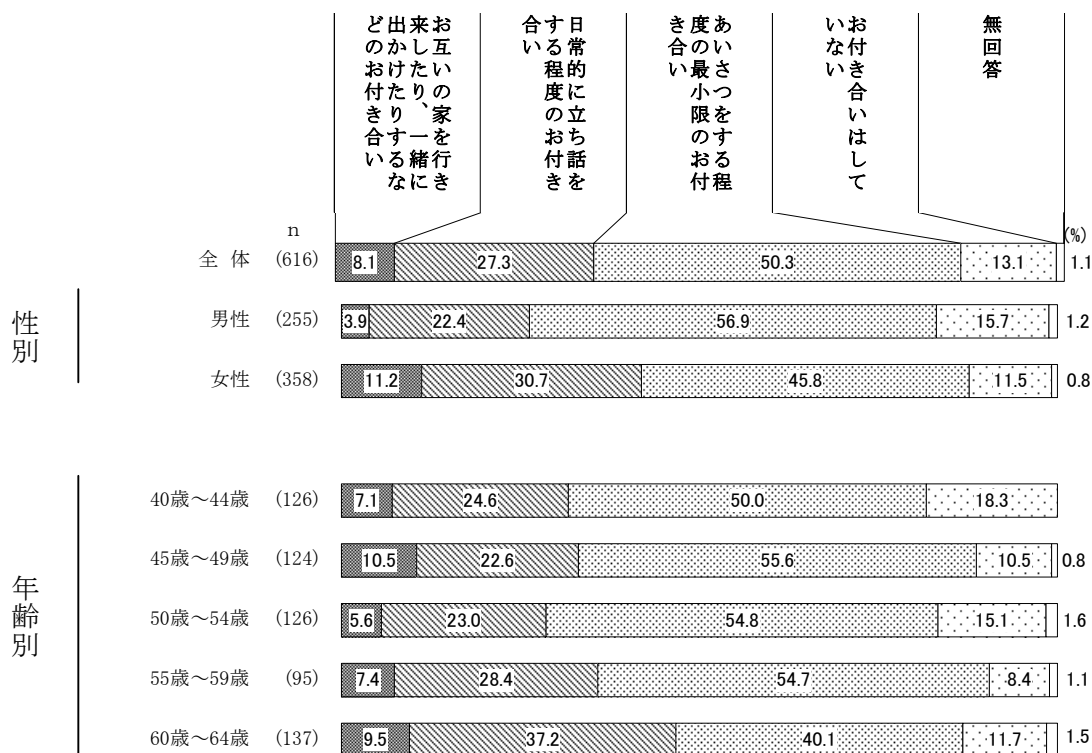
往診してくれる歯科医の認知度をたずねたところ、「はい」(26.8%)は2割台半ばを超える。

(4) 日ごろの生活について

① ご近所付き合い

問15 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

<図表 192> ご近所付き合い (性別/年齢別)



近所の方とのお付き合いの程度についてたずねたところ、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(50.3%)が約5割と最も高く、次いで、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」(27.3%)が2割台半ばを超える。

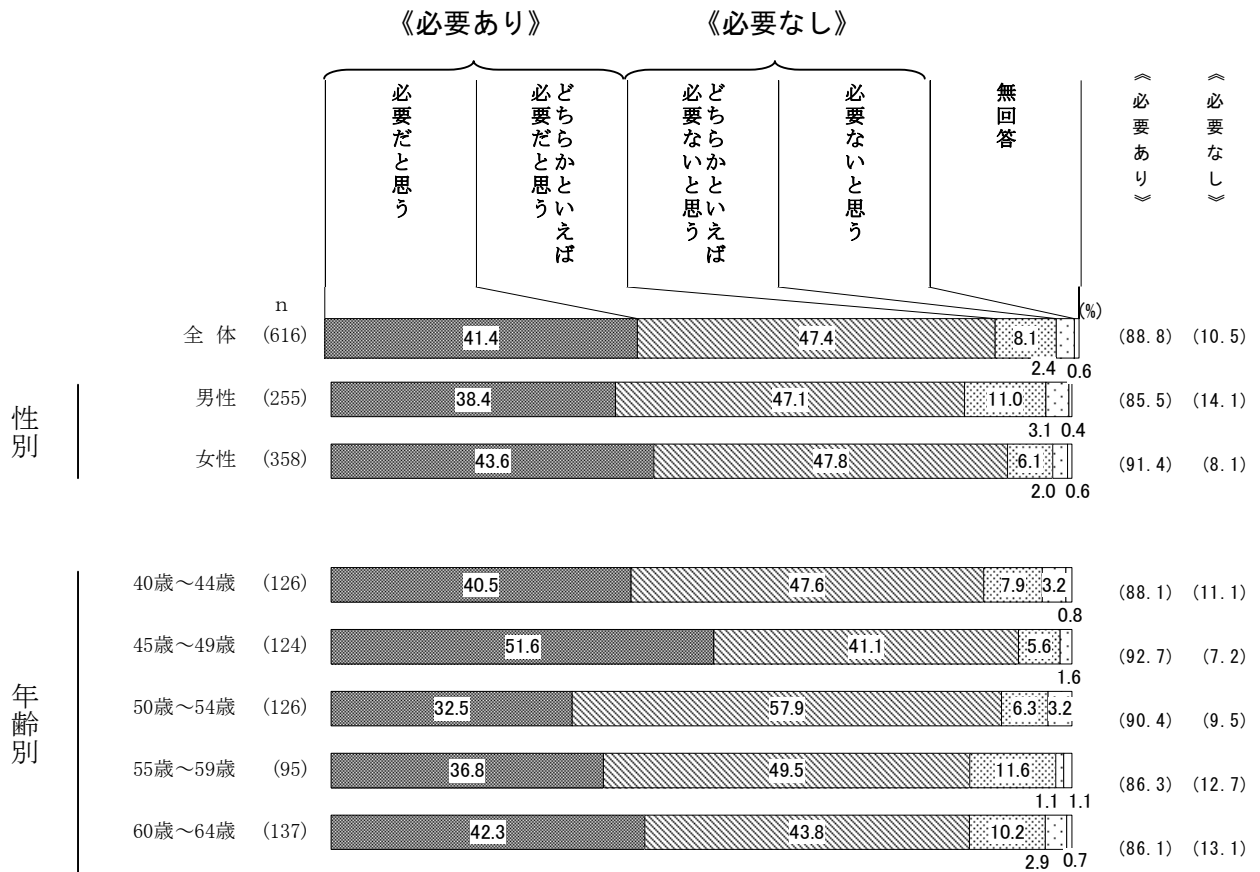
性別で見ると、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」は、男性のほうが11.1ポイント高くなっている。また、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」は、女性のほうが8.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」は、60歳～64歳(40.1%)で約4割と低くなっている。また、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」は、50歳以降になると、年齢が上がるとともに、増加する傾向にある。

②地域のつながりの必要性

問16 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか。（1つに○）

<図表 193> 地域のつながりの必要性（性別/年齢別）



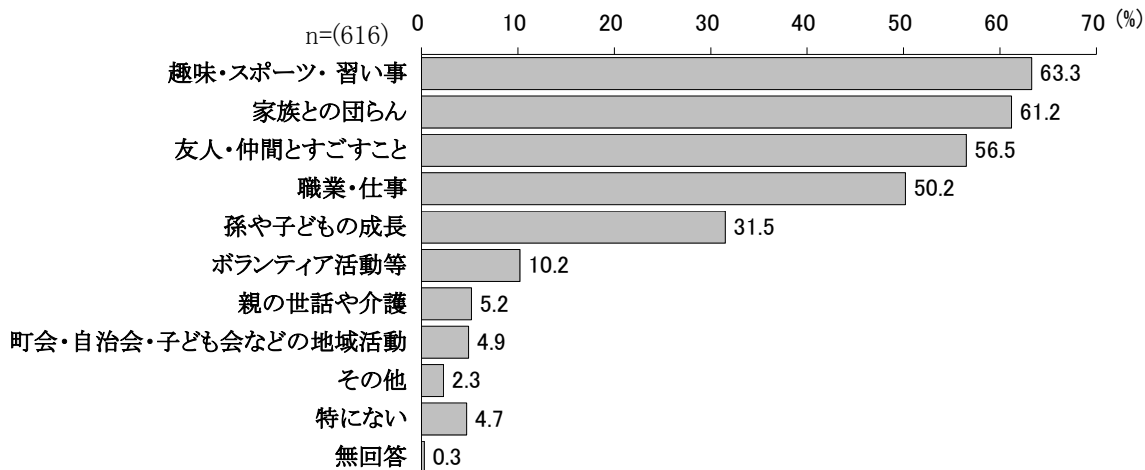
地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」（41.4％）と「どちらかといえ
ば必要だと思う」（47.4％）をあわせた《必要あり》が9割近くと高くなっている。
性別でみると、《必要あり》は、女性のほうが5.9ポイント高くなっている。
年齢別でみると、「必要だと思う」は、45歳～49歳（51.6％）で5割強と高くなっている。

(5) いきがいづくりや社会参加について

① いきがいを感じることに

問17 あなたにとって、いきがいを感じるのは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表 194> いきがいを感じることに

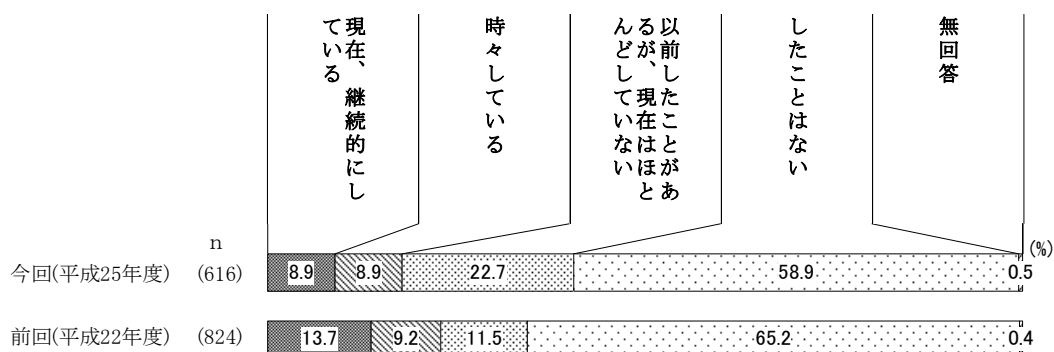


いきがいを感じることをたずねたところ、「趣味・スポーツ・習い事」(63.3%)が6割台半ば近く、次いで、「家族との団らん」(61.2%)が6割強、「友人・仲間と過ごすこと」(56.5%)が5割台半ばを超える。

② 地域活動・ボランティア活動の状況

問18 あなたは、現在、地域活動(町会、自治会、子ども会など、以下同様)やボランティア活動等を行っていますか。(1つに○)

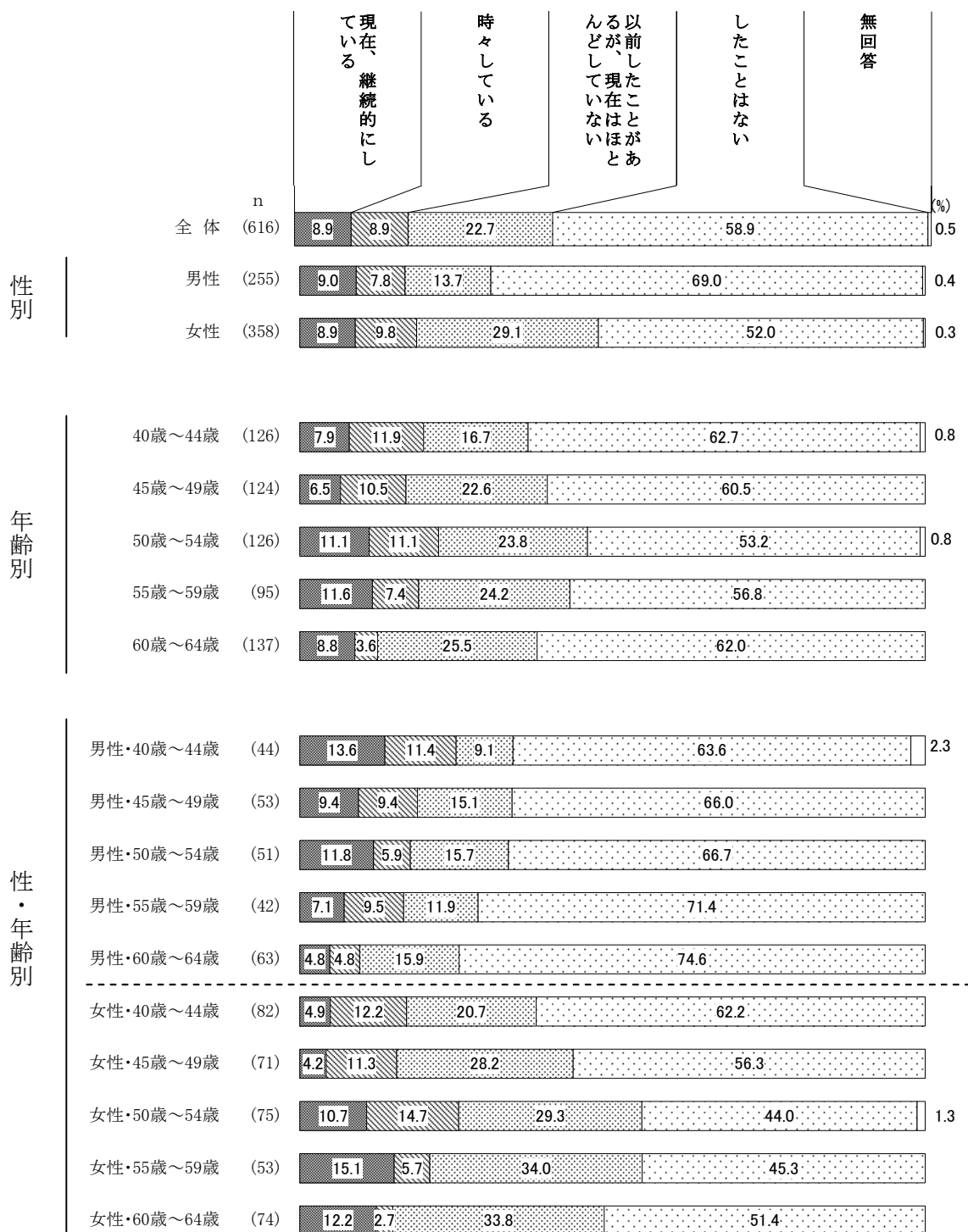
<図表 195> 地域活動・ボランティア活動の状況(経年比較)



地域活動・ボランティア活動の状況をたずねたところ、「したことはない」(58.9%)が6割弱と最も高く、次いで、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」(22.7%)が2割強となっている。

経年比較でみると、「したことはない」は、前回調査に比べ、6.3ポイント低く、また「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」は11.2ポイント高くなっている。

<図表 196> 地域活動・ボランティア活動の状況（性別/年齢別/性・年齢別）



性別でみると、「したことはない」は、男性のほうが17.0ポイント高くなっている。

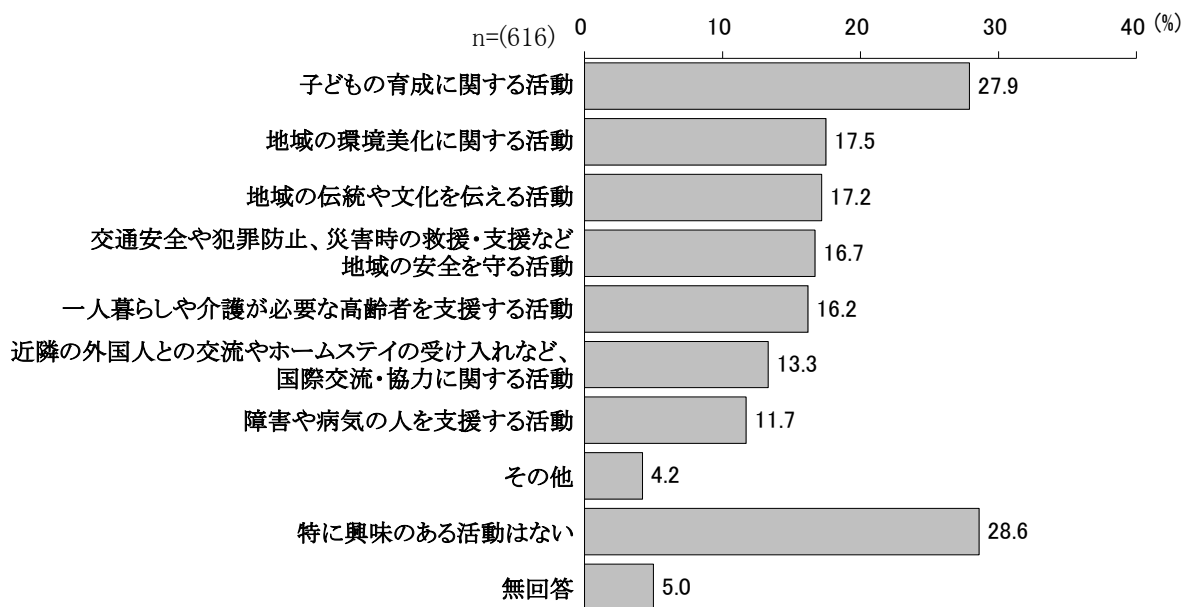
年齢別でみると、「したことはない」は、40歳～44歳（62.7%）及び60歳～64歳（62.0%）で6割以上と高くなっている。

性・年齢別でみると、「したことはない」は、男性55歳～59歳（71.4%）と男性60歳～64歳（74.6%）で7割以上と高くなっている。

③興味のある地域活動・ボランティア活動

問19 あなたが興味のある地域活動やボランティア活動等（実際に取り組んでいるものも含む）は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表 197> 興味のある地域活動・ボランティア活動



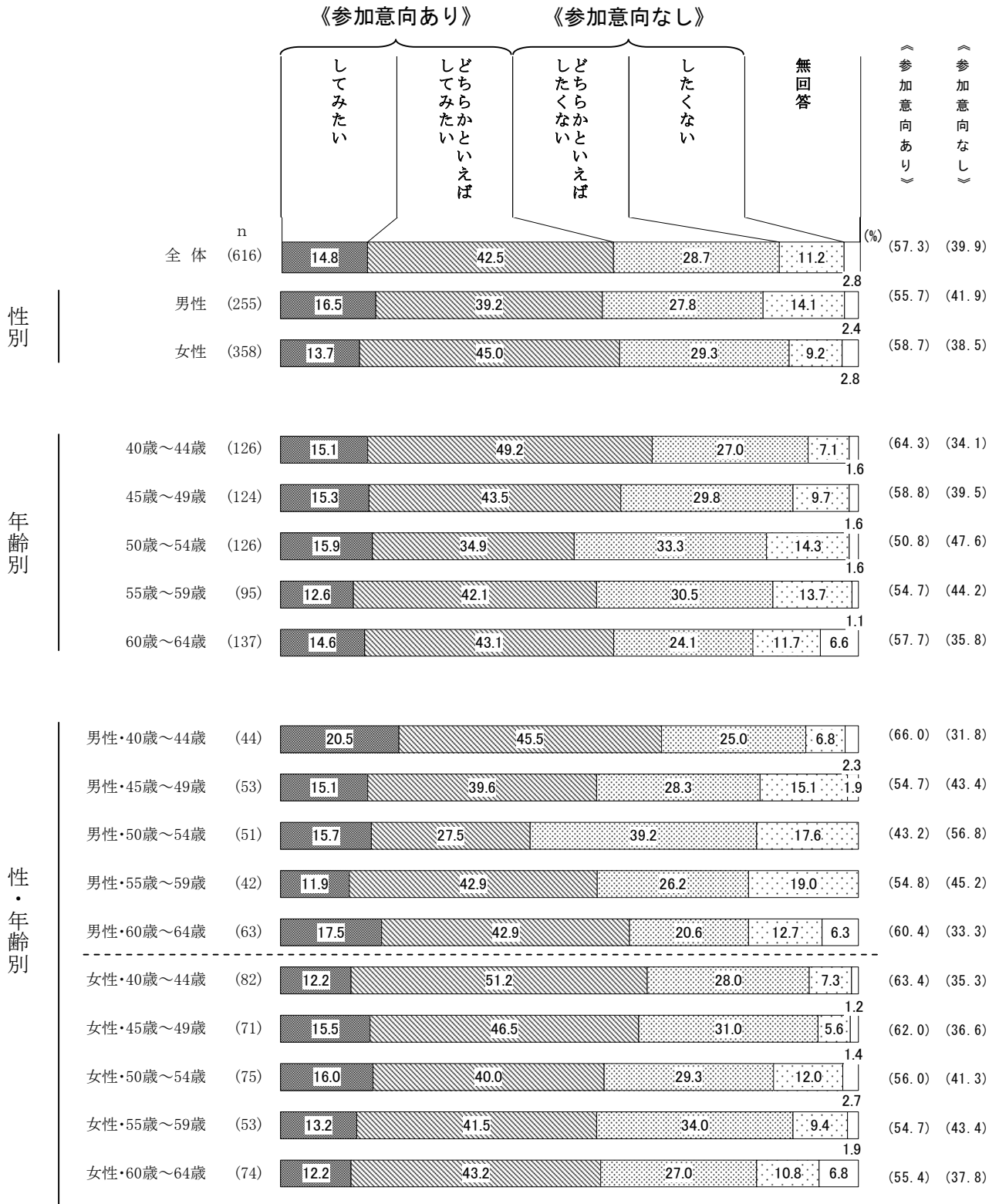
興味のある地域活動やボランティア活動等をたずねたところ、「子どもの育成に関する活動」(27.9%) が2割台半ばを超え最も高くなっている。

一方、「特に興味のある活動はない」(28.6%) は3割近くとなっている。

④今後の地域活動・ボランティア活動への参加意向

問20 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。(1つに○)

<図表 198> 今後の地域活動・ボランティア活動への参加意向 (性別/年齢別/性・年齢別)

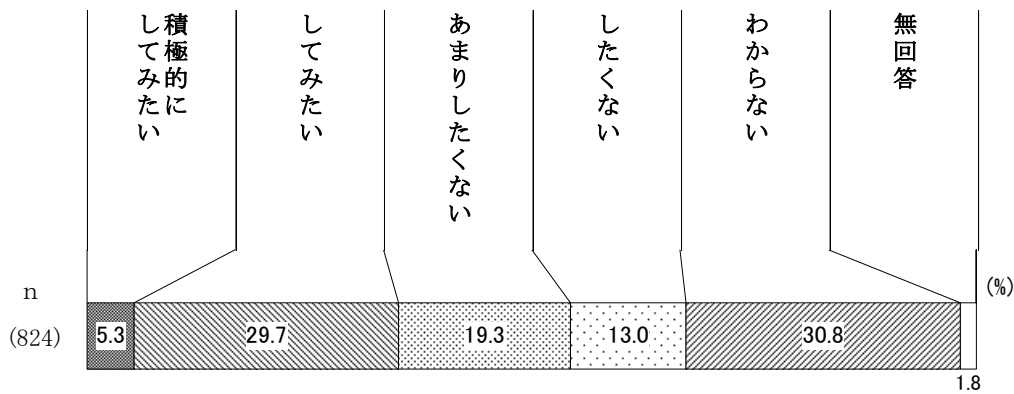


今後の地域活動やボランティア活動等の参加意向をたずねたところ、「どちらかといえばしてみたい」(42.5%)が4割強と最も高く、次いで、「どちらかといえばしたくない」(28.7%)が3割近くとなっている。

年齢別でみると、《参加意向あり》は、40歳～44歳(64.3%)で6割台半ば近くと高くなっている。

性・年齢別でみると、《参加意向あり》は、男性40歳～44歳(66.0%)で6割台半ばを超え、高くなっている。

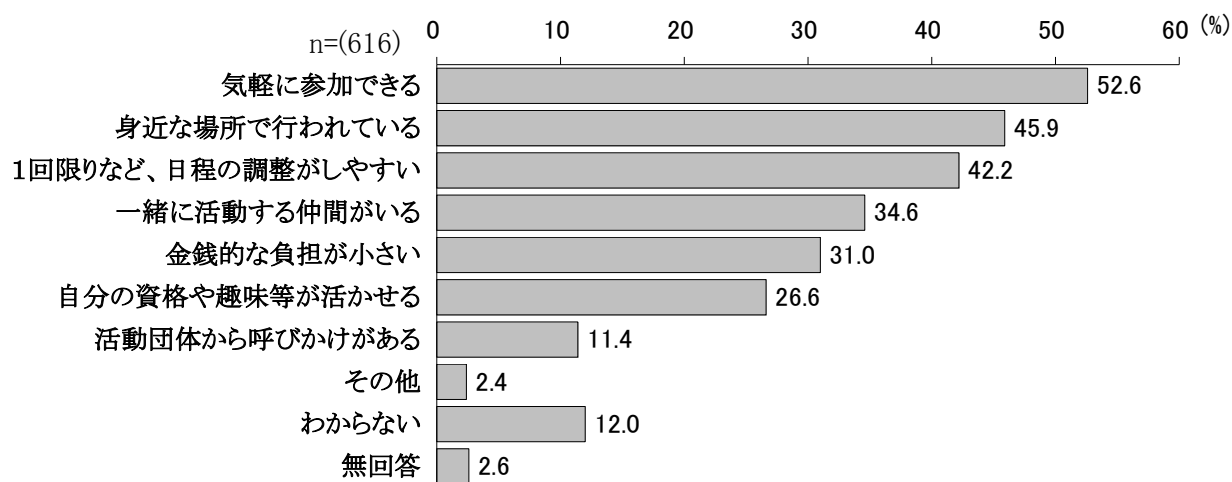
<図表 199> (参考) 今後の地域活動・ボランティア活動への参加意向：前回（平成22年度調査）



⑤地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる形

問21 あなたはどのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 200> 地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる形



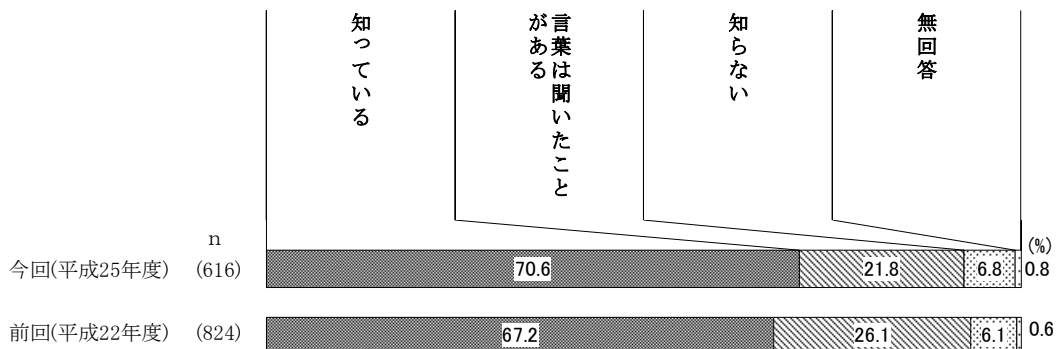
地域活動やボランティア活動等に参加しやすくなる形をたずねたところ、「可以轻松参加できる」(52.6%)が5割強と最も高く、次いで、「身近な場所で行われている」(45.9%)が4割台半ばとなっている。

(6) 若年性認知症について

① 若年性認知症の周知状況

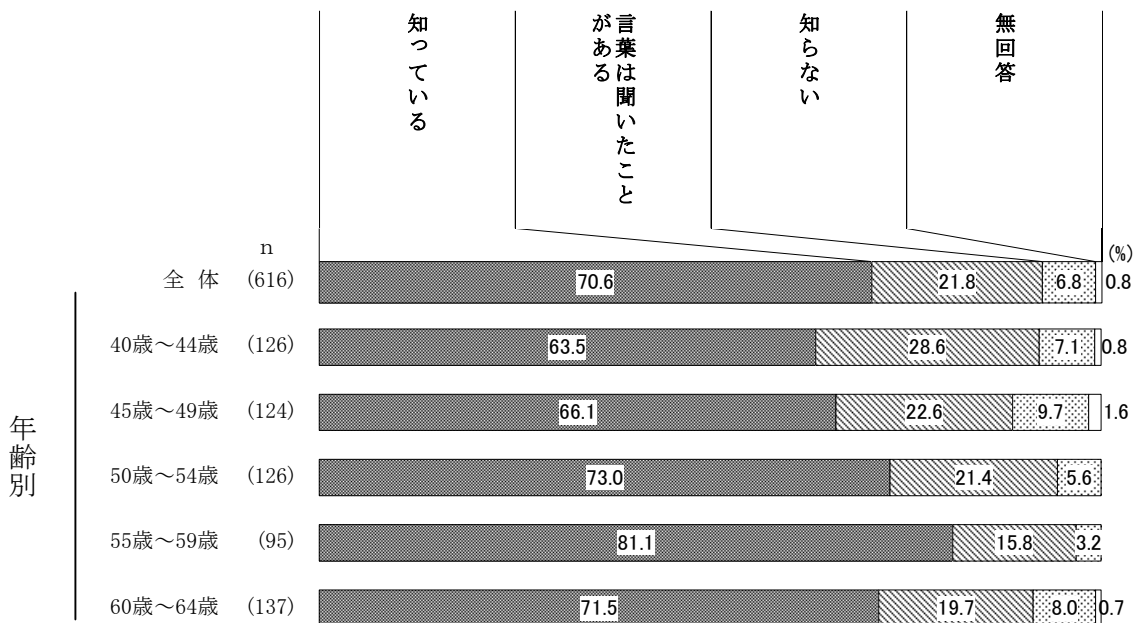
問22 あなたは「若年性認知症」という病気をご存じですか。(1つに○)

<図表 201> 若年性認知症の周知状況 (経年比較)



「若年性認知症」の認知度をたずねたところ、「知っている」(70.6%)は約7割、「言葉は聞いたことがある」(21.8%)は2割強となっている。

<図表 202> 若年性認知症の周知状況 (年齢別)

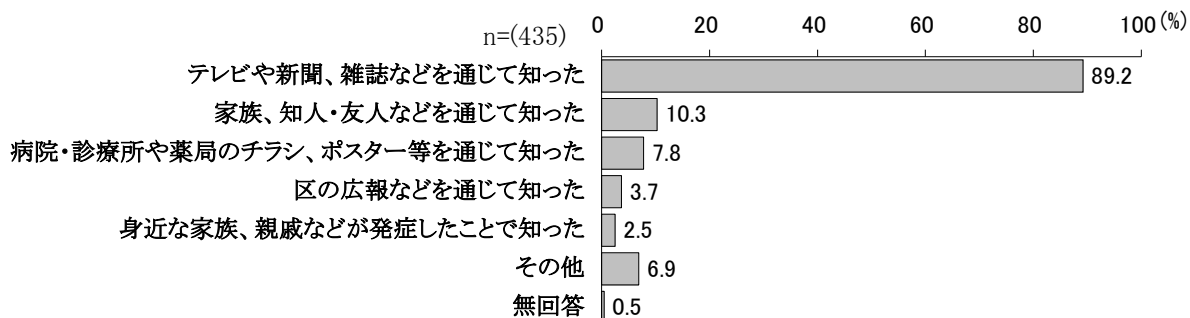


年齢別で見ると、「知っている」は、55歳～59歳(81.1%)で8割強と高くなっている。

②若年性認知症を知ったきっかけ

問22-1 《問22で「1 知っている」と回答した方のみお答えください》
「若年性認知症」を何でお知りになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 203> 若年性認知症を知ったきっかけ

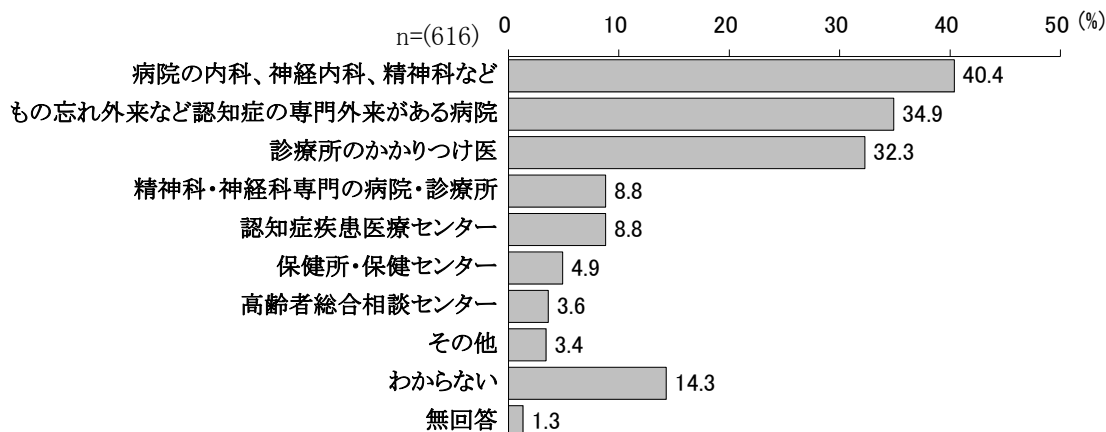


問22で若年性認知症を「知っている」と回答した人に、そのきっかけをたずねたところ、「テレビや新聞、雑誌などを通じて知った」(89.2%)が9割弱と最も高くなっている。

③物忘れ等気になる症状があった時の相談先

問23 あなたが、物忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があった時、どこに相談しようと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 204> 物忘れ等気になる症状があった時の相談先

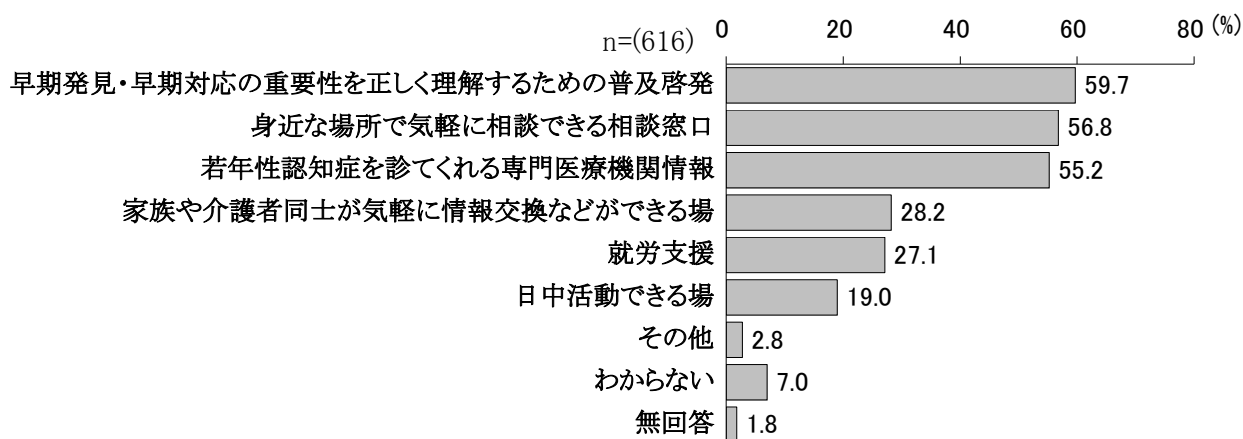


物忘れ等気になる症状があった時の相談先をたずねたところ、「病院の内科、神経内科、精神科など」(40.4%)が約4割と最も高くなっている。次いで、「もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」(34.9%)が3割台半ば近く、「診療所のかかりつけ医」(32.3%)が3割強となっている。

④若年性認知症に必要な支援

問24 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表 205> 若年性認知症に必要な支援



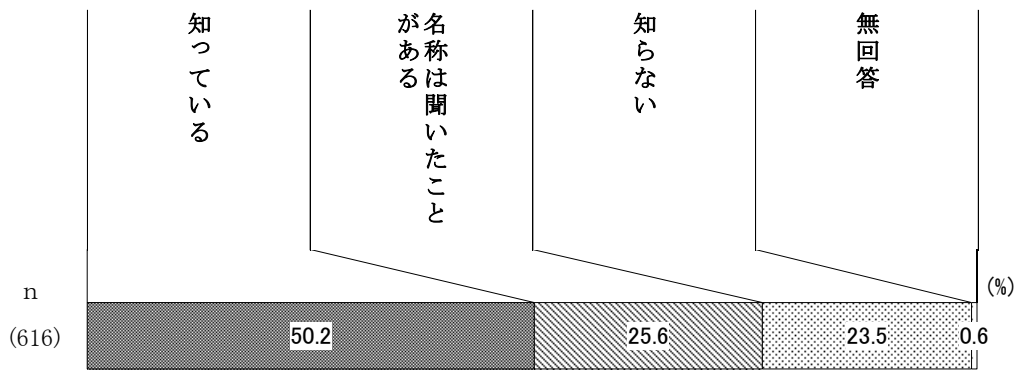
若年性認知症の支援に必要なものをたずねたところ、「早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」(59.7%)、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」(56.8%)、「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」(55.2%)の3項目が5割台半ば以上と高くなっている。

(7) 権利擁護について

① 成年後見制度の周知状況

問25 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか。(1つに○)

<図表 206> 成年後見制度の周知状況

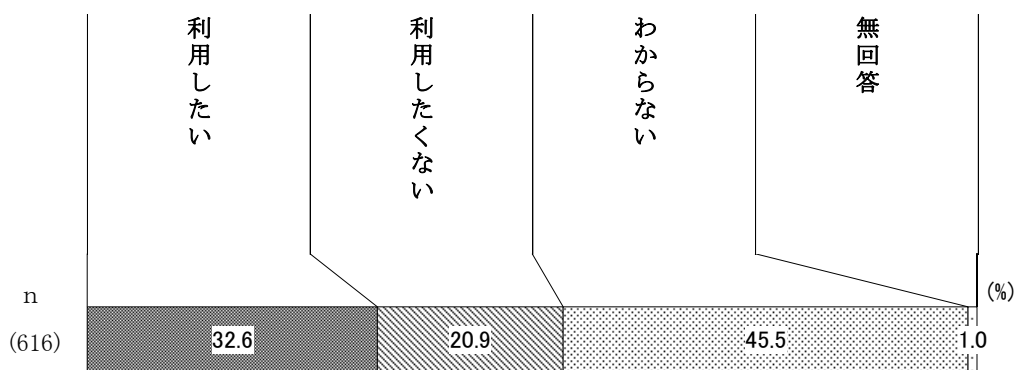


成年後見制度の認知度をたずねたところ、「知っている」(50.2%)は約5割、「名称は聞いたことがある」(25.6%)は2割台半ばとなっている。

② 成年後見制度の利用意向

問26 あなたは、判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用したいですか。(1つに○)

<図表 207> 成年後見制度の利用意向

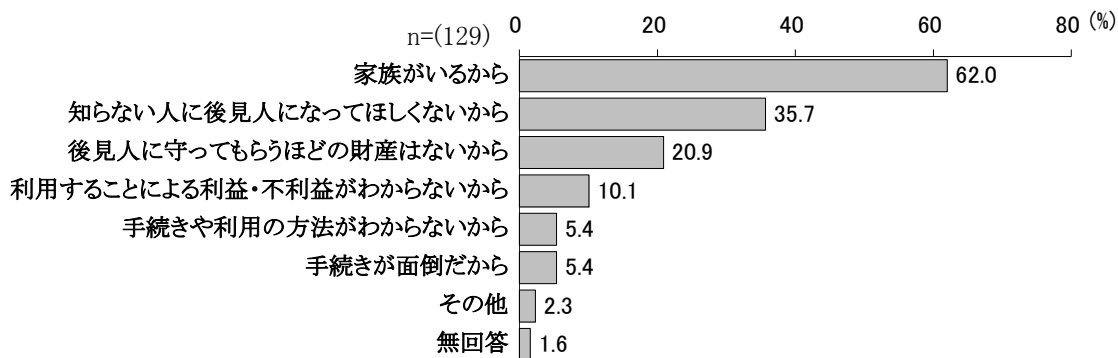


成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「利用したい」(32.6%)は3割強、「利用したくない」(20.9%)が約2割となっている。

③成年後見制度を利用したくない理由

問26-1 《問26で「2 利用したくない」と回答した方のみお答えください》
 利用したくない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 208> 成年後見制度を利用したくない理由

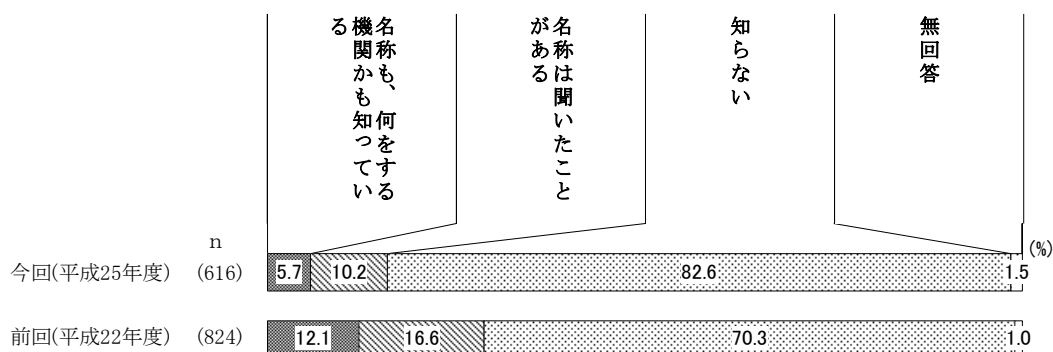


問26で成年後見制度を「利用したくない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「家族がいるから」(62.0%)が6割強と最も高くなっている。次いで、「知らない人に後見人になってほしくないから」(35.7%)が3割台半ば、「後見人に守ってもらうほどの財産はないから」(20.9%)が約2割となっている。

④新宿区成年後見センターの周知状況

問27 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか。(1つに○)

<図表 209> 新宿区成年後見センターの周知状況 (経年比較)



新宿区成年後見センターの認知度をたずねたところ、「名称も、何をする機関かも知っている」は5.7%、「名称は聞いたことがある」は10.2%と低くなっている。

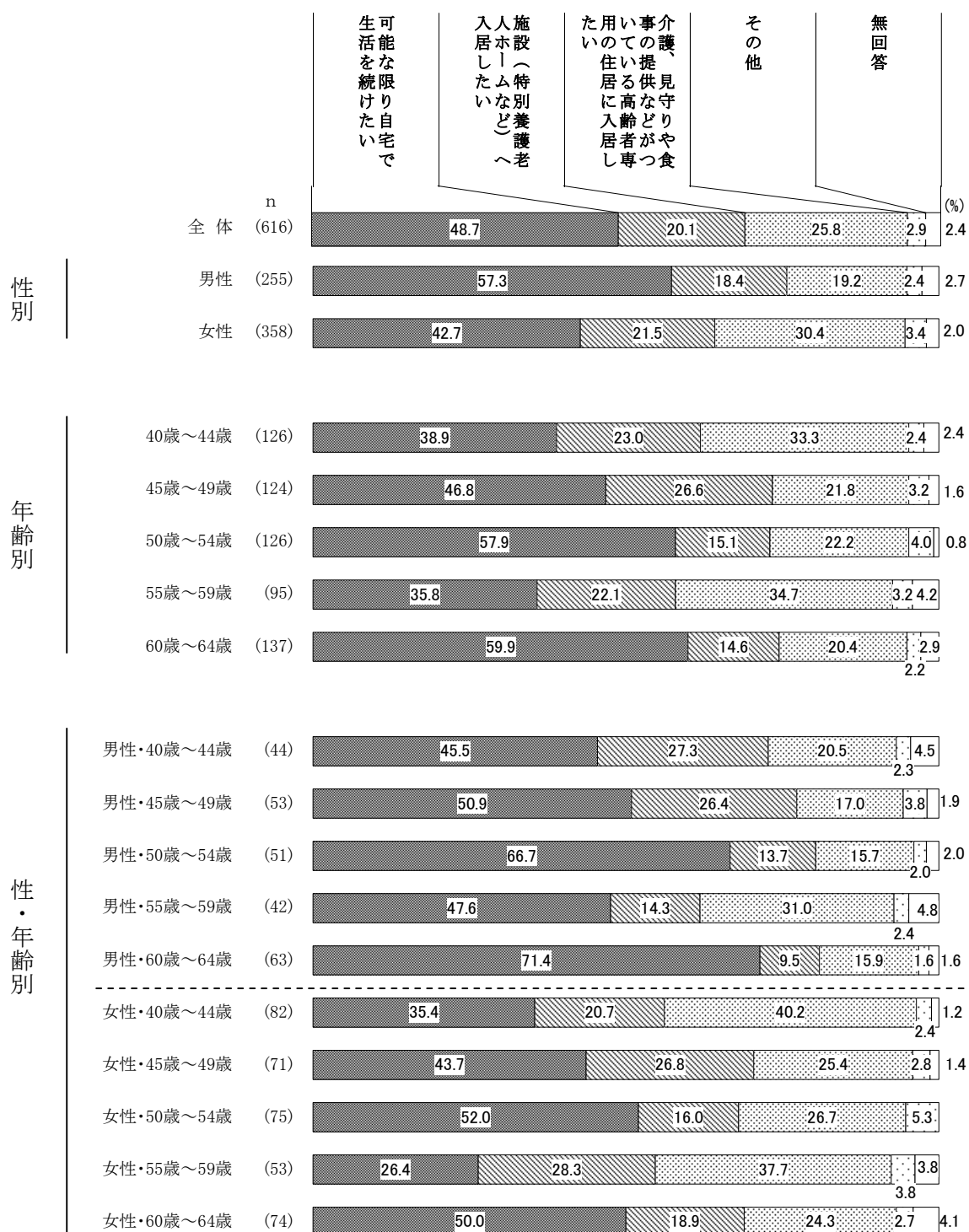
経年比較でみると、「名称も、何をする機関かも知っている」は、前回調査に比べ、6.4ポイント低くなっている。

(8) 介護や医療が必要になった時のことについて

①介護が必要になった場合の生活場所

問28 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。
(1つに○)

<図表 210> 介護が必要になった場合の生活場所 (性別/年齢別/性・年齢別)



第2章 2-3 第2号被保険者調査

介護が必要になった場合の生活場所の希望をたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(48.7%)が5割近くと最も高くなっている。

性別でみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」は、男性のほうが14.6ポイント高くなっている。

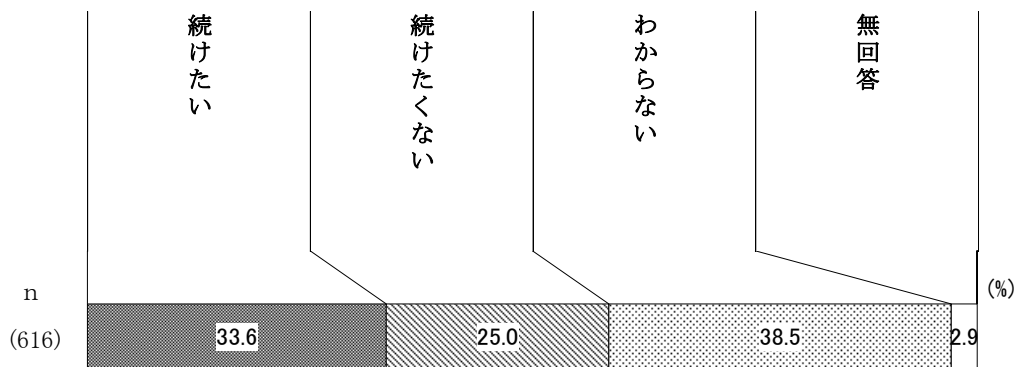
年齢別でみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」は、60歳～64歳(59.9%)で6割弱と高くなっている。

性・年齢別でみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」は、55歳～59歳及び60歳～64歳で男性が女性よりも、20ポイント以上高くなっている。

②在宅療養の意向

問29 「在宅療養」についておたずねします。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいですか。(1つに○)

<図表 211> 在宅療養の意向

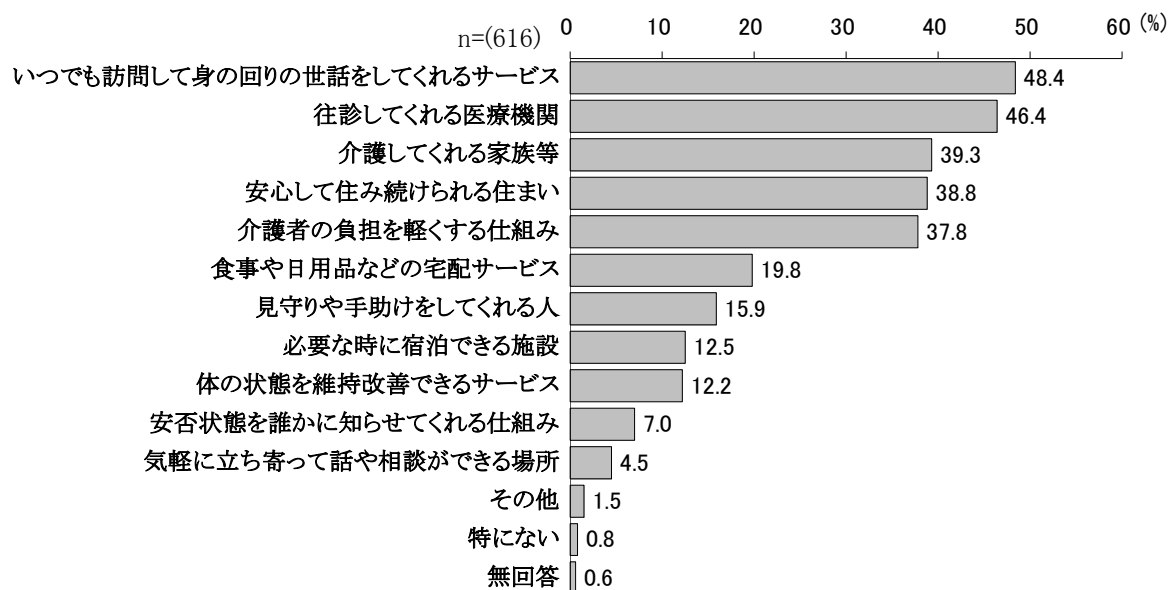


在宅療養の意向をたずねたところ、「続けたい」(33.6%)は3割台半ば近く、「続けたくない」(25.0%)は2割台半ばとなっている。

③在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの

問30 介護や医療が必要になっても、在宅で暮らし続けるために、あなたが特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

<図表 212> 在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの



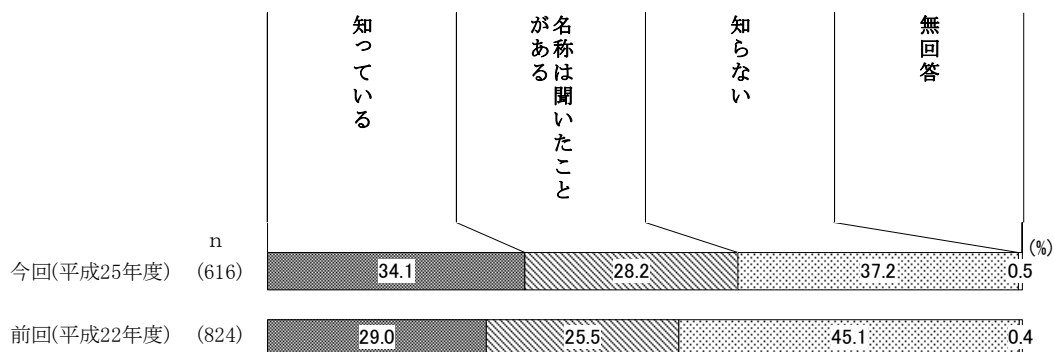
在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うものをたずねたところ、「いつでも訪問して身の回りの世話をしてくれるサービス」(48.4%)が5割近くとなっている。次いで、「往診してくれる医療機関」(46.4%)が4割台半ばを超え、「介護してくれる家族等」(39.3%)が4割弱となっている。

(9) 緩和医療・ケアについて

①がんの「緩和医療・ケア」の周知状況

問31 あなたは、がんの「緩和医療・ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表 213> がんの「緩和医療・ケア」の周知状況 (経年比較)



がんの「緩和医療・ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(34.1%)は3割台半ば近く、「名称は聞いたことがある」(28.2%)は3割近くとなっている。

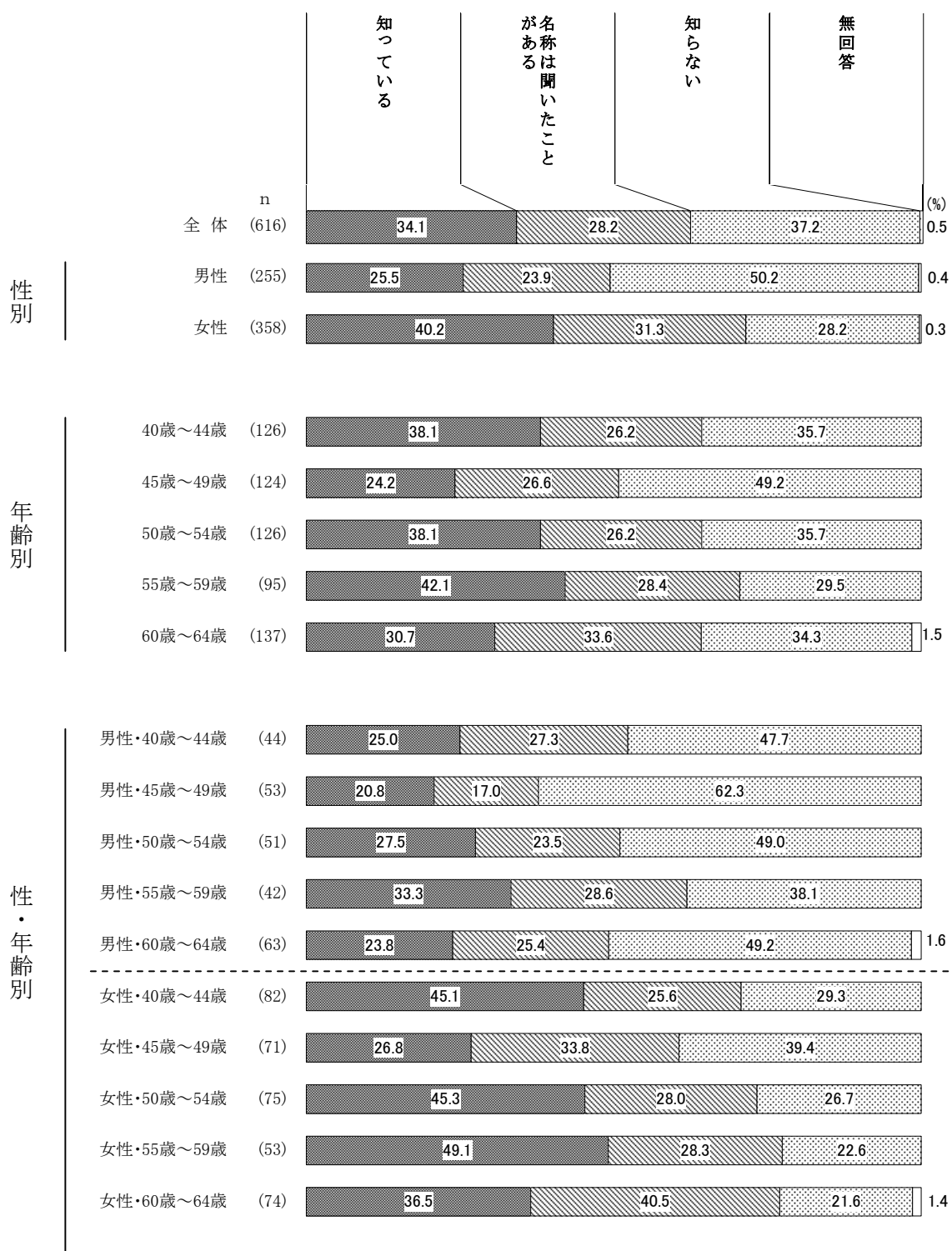
経年比較でみると、「知っている」は、前回調査に比べ、5.1ポイント高くなっている。

性別でみると、「知っている」は、女性のほうが14.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「知っている」は、55歳～59歳(42.1%)で4割強と高くなっている。

性・年齢別でみると、「知っている」は、女性55歳～59歳(49.1%)で5割弱と高くなっている。

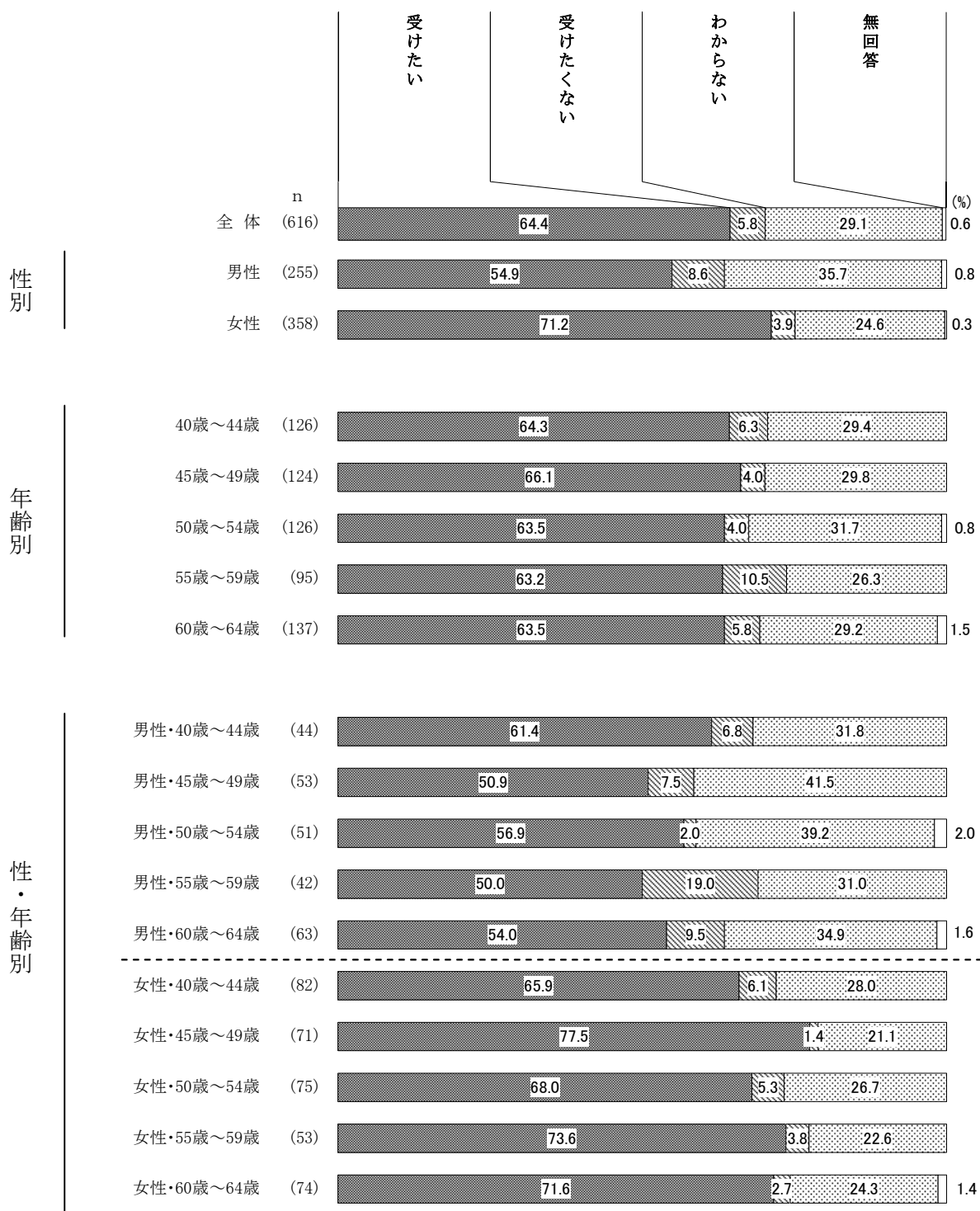
<図表 214> がんの「緩和医療・ケア」の周知状況（性別/年齢別/性・年齢別）



②がんの「緩和医療・ケア」の利用意向

問32 あなたは、がんで、病状の回復が期待できない場合、「緩和医療・ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表 215> がんの「緩和医療・ケア」の利用意向 (性別/年齢別/性・年齢別)



がんの「緩和医療・ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」（64.4%）は6割台半ば近くと高くなっている。

性別で見ると、「受けたい」は、女性のほうが16.3ポイント高くなっている。

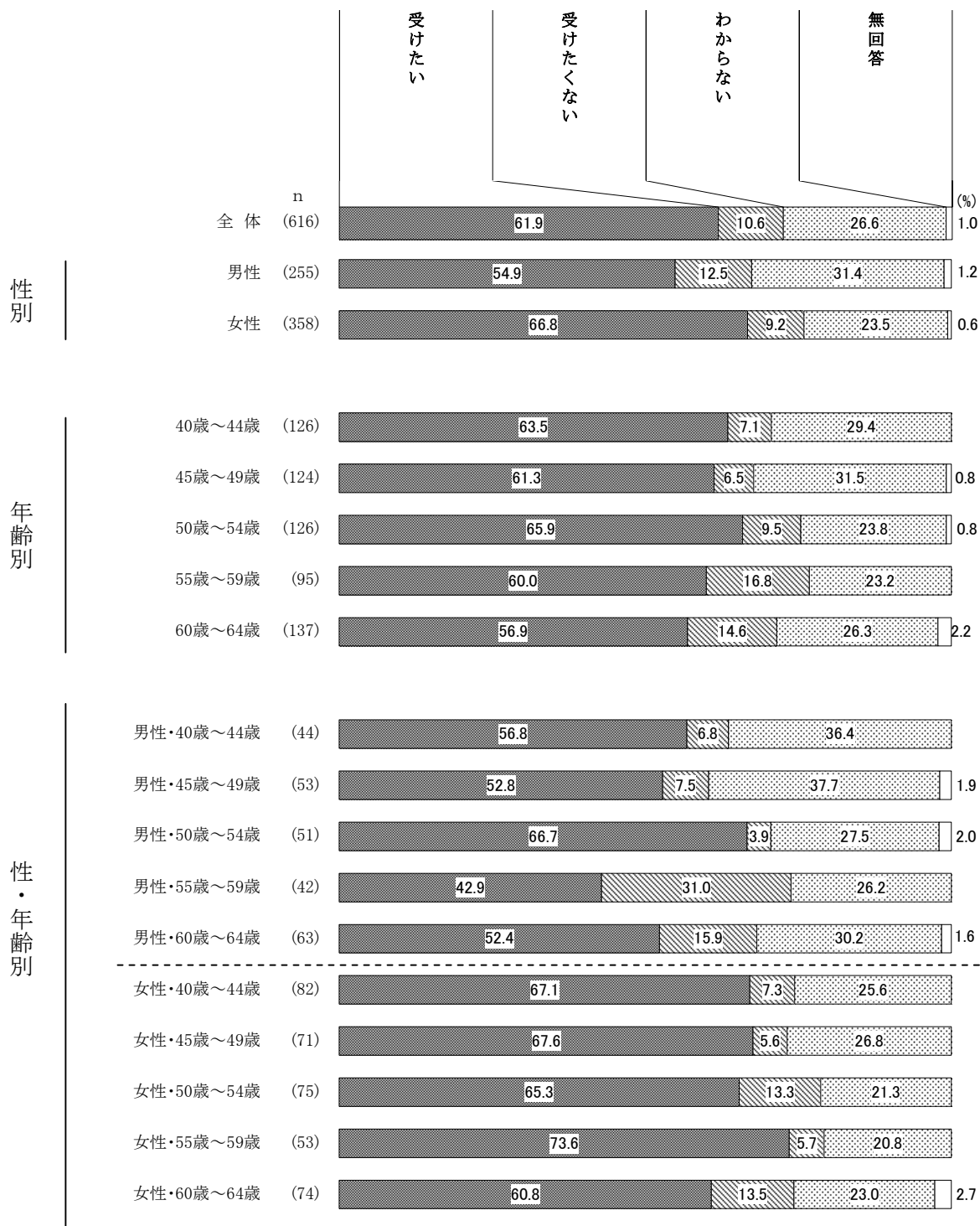
年齢別で見ると、「受けたい」は、すべての年齢層で6割台となっている。

性・年齢別で見ると、「受けたい」は、すべての年齢層で、女性のほうが高く、中でも女性45歳～49歳（77.5%）は7割台半ばを超える。

③がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向

問33 あなたは、さらに高齢になり、がん以外の病気で、病状の回復が期待できない場合、症状の緩和を主とした医療・ケアを受けたいですか。(1つに○)

<図表 216> がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向
(性別/年齢別/性・年齢別)



がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向をたずねたところ、「受けたい」(61.9%)は6割強と高くなっている。

性別で見ると、「受けたい」は、女性のほうが11.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「受けたい」は、50歳～54歳(65.9%)で6割台半ばと最も高くなっている。

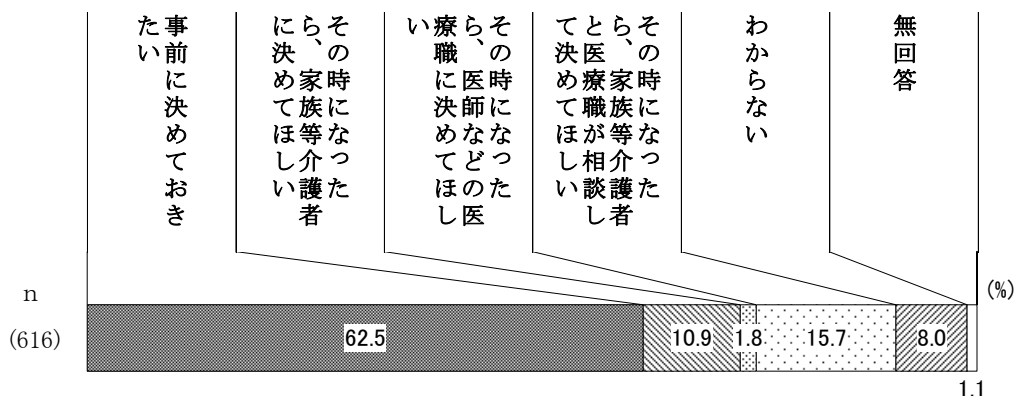
性・年齢別で見ると、「受けたい」は、50歳～54歳を除き女性のほうが高く、中でも女性55歳～59歳(73.6%)で7割台半ば近くと高くなっている。

(10) 看取りについて

①自身で判断できなくなったときの医療・介護

問34 あなたは、ご自身で判断できなくなったときの医療や介護を、どのようにしたいですか。(1つに○)

<図表 217> 自身で判断できなくなったときの医療・介護



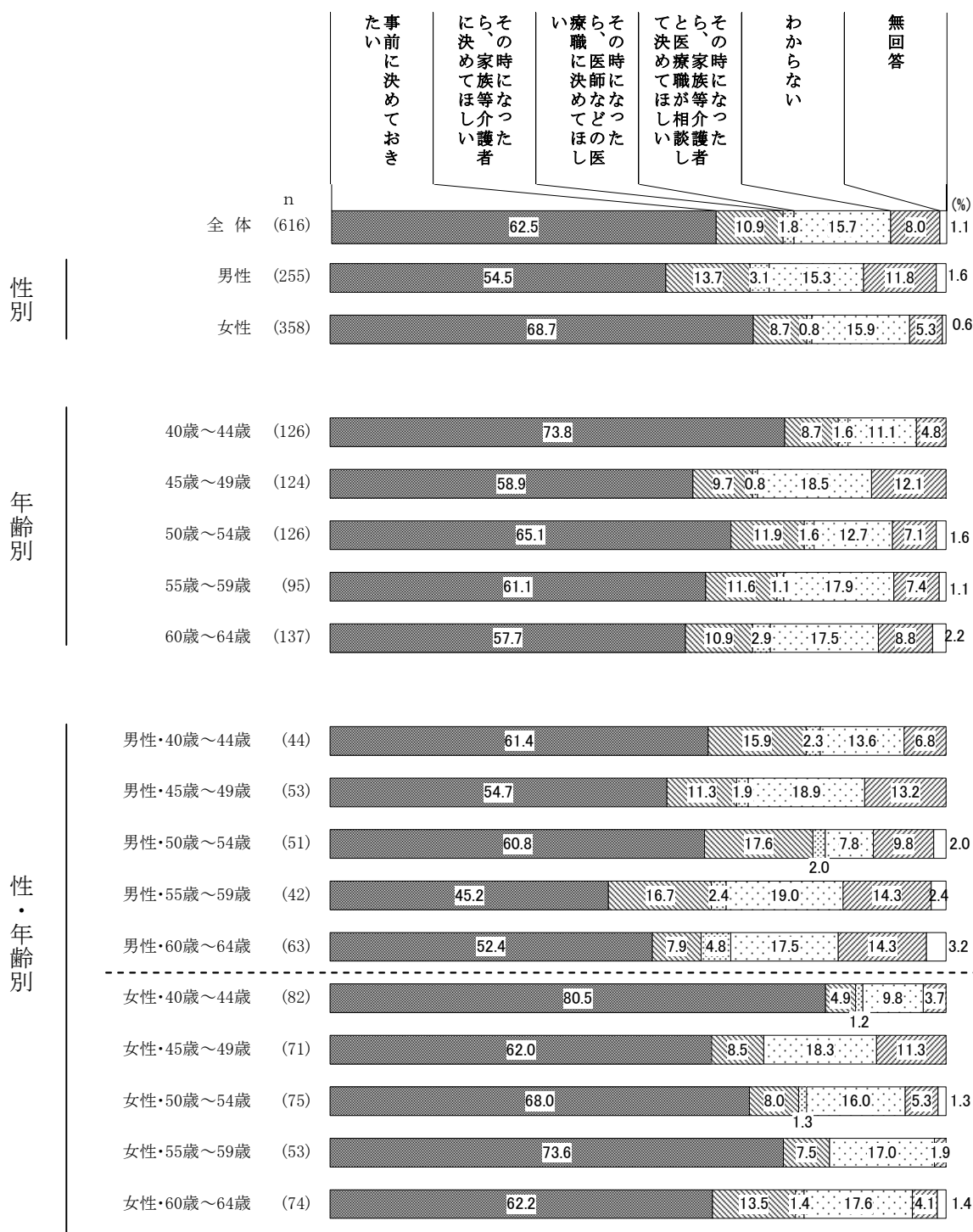
自身で判断できなくなった時の医療や介護についてたずねたところ、「事前決めておきたい」(62.5%)が6割強と最も高くなっている。次いで、「その時になったら、家族等介護者と医療職が相談して決めてほしい」(15.7%)が1割台半ばとなっている。

性別でみると、「事前決めておきたい」は、女性のほうが14.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「事前決めておきたい」は、40歳～44歳(73.8%)で7割台半ば近くと高くなっている。

性・年齢別でみると、「事前決めておきたい」は、すべての年齢層とも、女性のほうが高く、中でも女性40歳～44歳(80.5%)で約8割となっている。また、55歳～59歳では、女性(73.6%)が男性(45.2%)より28.4ポイント高くなっている。

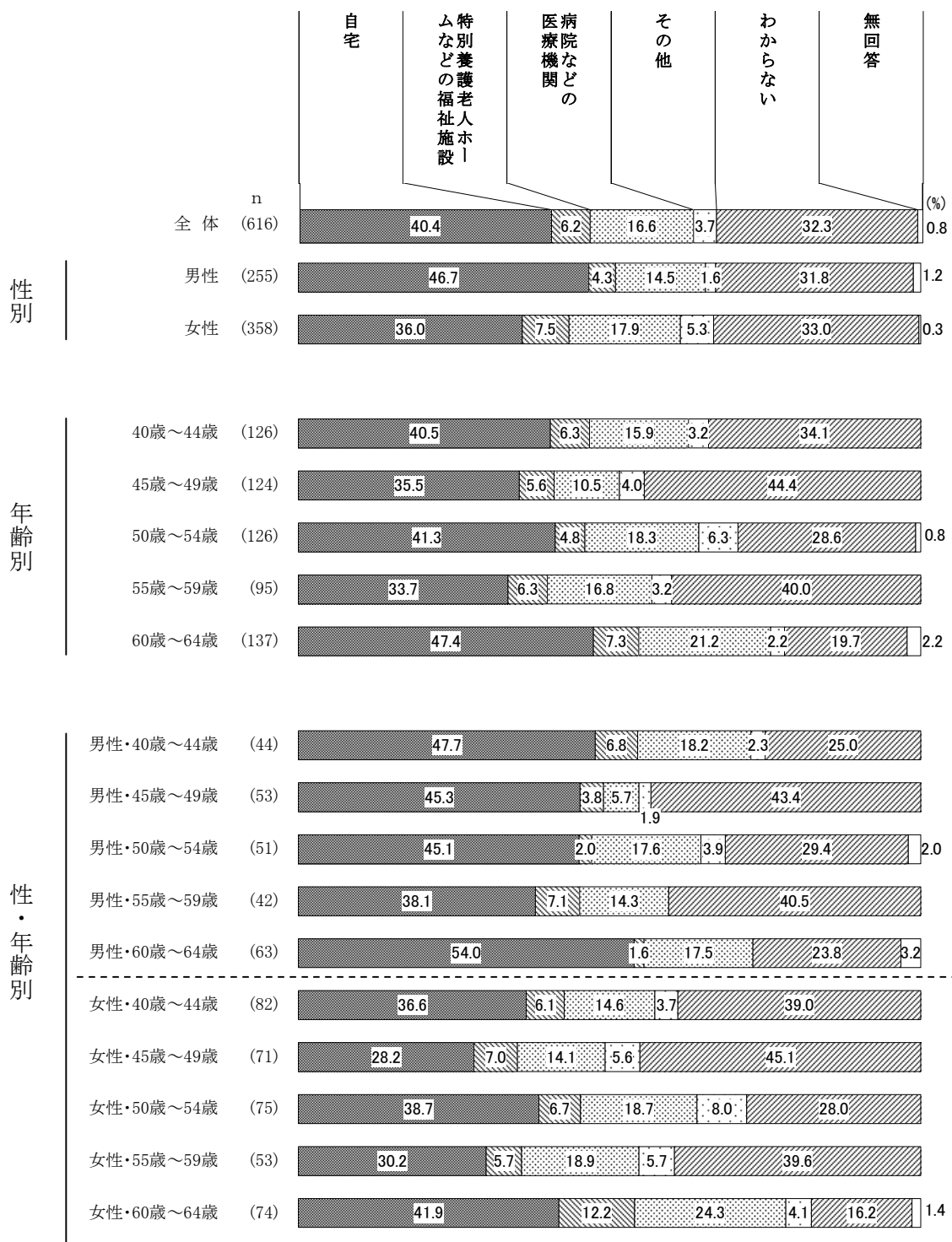
<図表 218> 自身で判断できなくなったときの医療・介護（性別/年齢別/性・年齢別）



②最期を迎えたい場所

問35 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表 219> 最期を迎えたい場所 (性別/年齢別/性・年齢別)



最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(40.4%)が約4割と最も高く、次いで、「病院などの医療機関」(16.6%)が1割台半ばを超える。

性別で見ると、「自宅」は、男性のほうが10.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自宅」は、60歳～64歳(47.4%)で4割台半ばを超え、高くなっている。

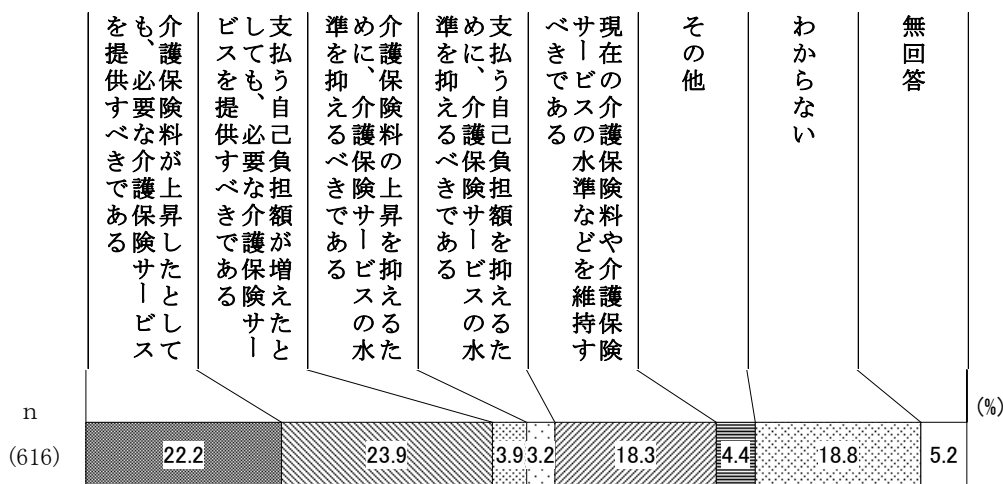
性・年齢別で見ると、「自宅」は、すべての年齢層とも、男性のほうが高く、中でも男性60歳～64歳(54.0%)で5割台半ば近くと高くなっている。

(11) 介護保険制度について

①介護保険のサービスと保険料についての考え

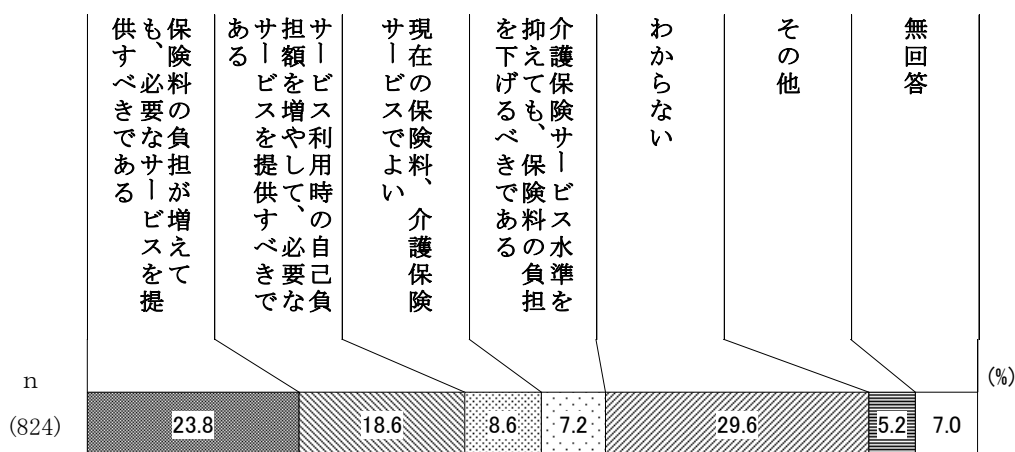
問36 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 220> 介護保険のサービスと保険料についての考え

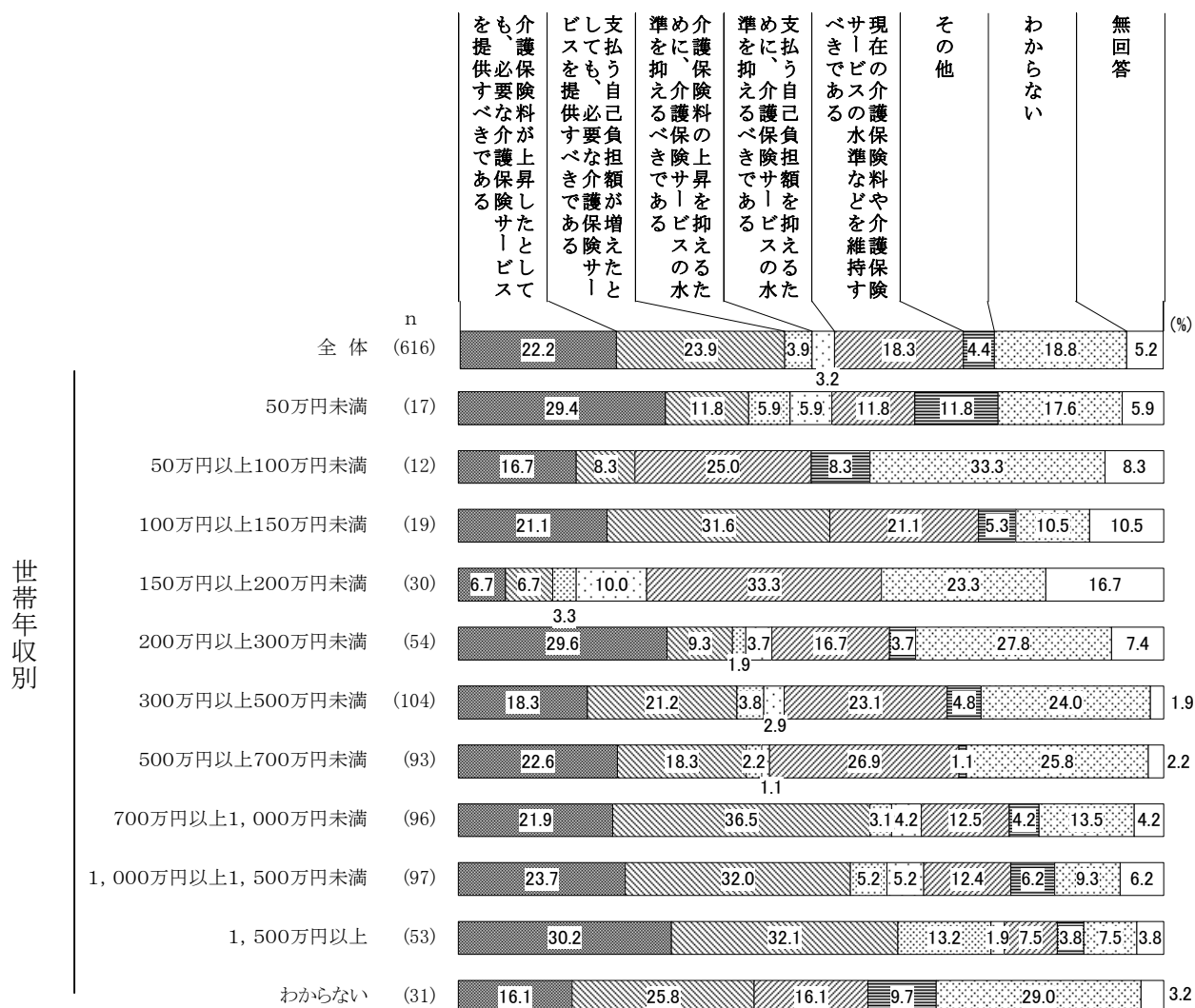


介護保険のサービスと保険料についての考えをたずねたところ、「支払う自己負担額が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(23.9%)が2割台半ば近く、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(22.2%)が2割強となっている。

<図表 221> (参考) 介護保険のサービスと保険料についての考え：前回(平成22年度調査)



<図表 222> 介護保険のサービスと保険料についての考え（世帯年収別）

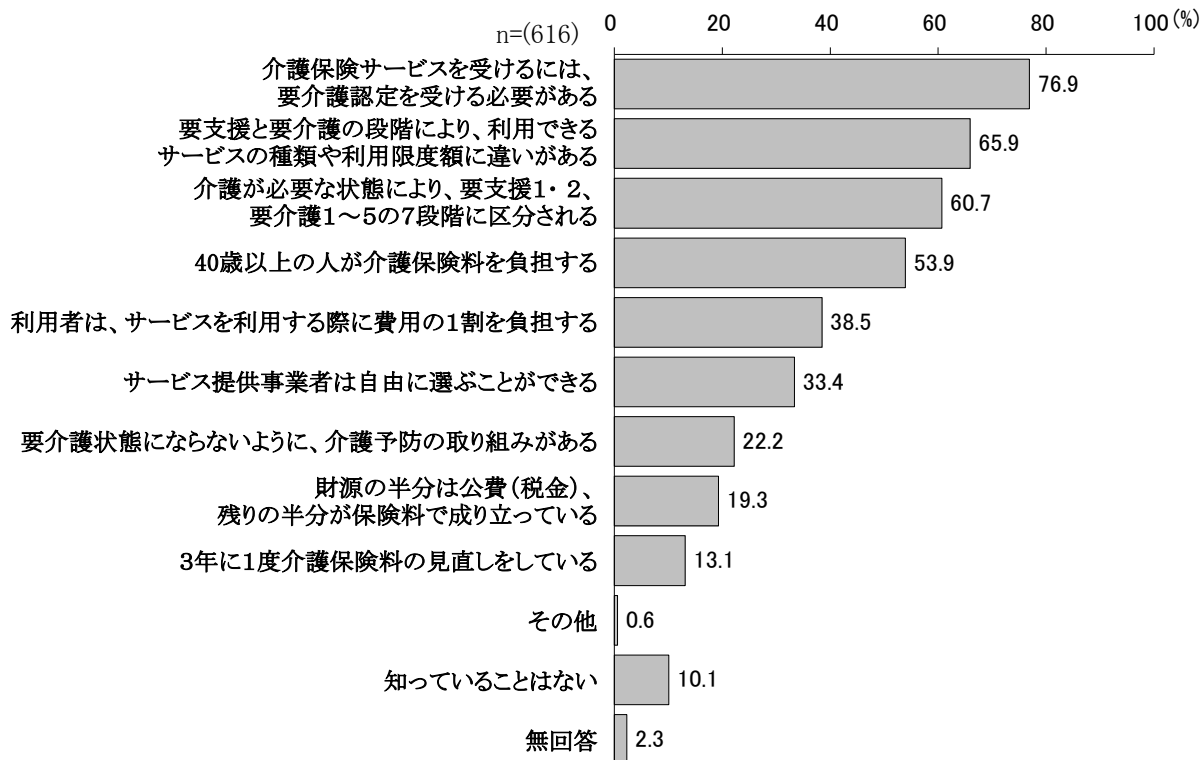


世帯年収別でみると、「支払う自己負担額が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」は、700万円以上1,000万円未満（36.5%）で3割台半ばを超え、高くなっている。

②介護保険制度の周知状況

問37 あなたは「介護保険制度」について、どのようなことをご存じですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表 223> 介護保険制度の周知状況



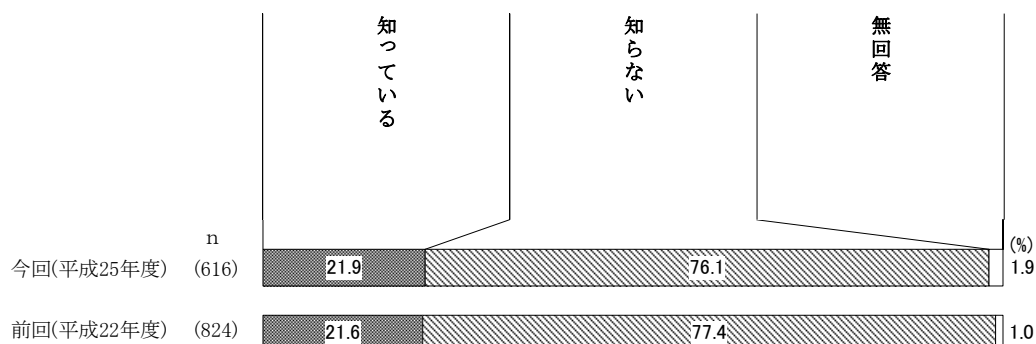
介護保険制度について知っていることをたずねたところ、「介護保険サービスを受けるには、要介護認定を受ける必要がある」(76.9%)が7割台半ばを超え最も高くなっている。次いで、「要支援と要介護の段階により、利用できるサービスの種類や利用限度額に違いがある」(65.9%)が6割台半ば、「介護が必要な状態により、要支援1・2、要介護1～5の7段階に区分される」(60.7%)が約6割となっている。

(12) 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

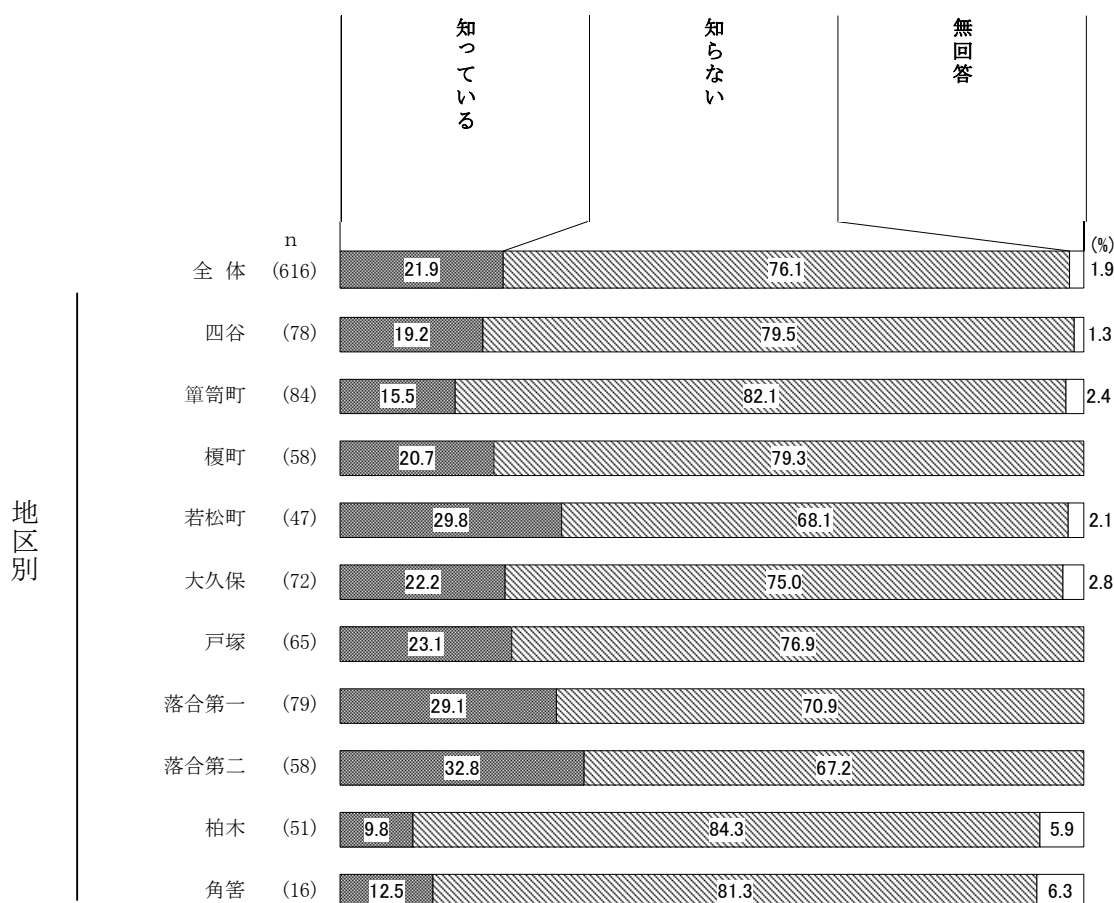
① 高齢者総合相談センターの名称の周知状況

問38 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)

<図表 224> 高齢者総合相談センターの名称の周知状況 (経年比較)



<図表 225> 高齢者総合相談センターの名称の周知状況 (地区別)



高齢者総合相談センターの名称の認知度をたずねたところ、「知っている」(21.9%)は2割強、「知らない」(76.1%)は7割台半ばを超える。

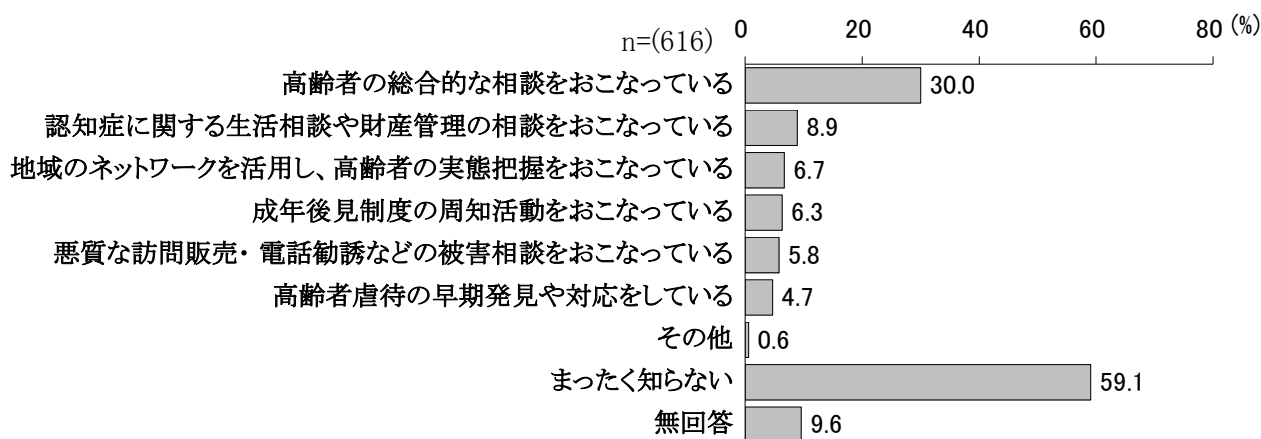
経年比較でみると、前回調査と大きな差は見られない。

地区別でみると、「知っている」は、落合第二(32.8%)、落合第一(29.1%)、若松町(29.8%)が3割前後と高くなっている。

②高齢者総合相談センターの機能の周知状況

問39 あなたは、「高齢者総合相談センター」の役割や機能について、どのようなことをご存じですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 226> 高齢者総合相談センターの機能の周知状況

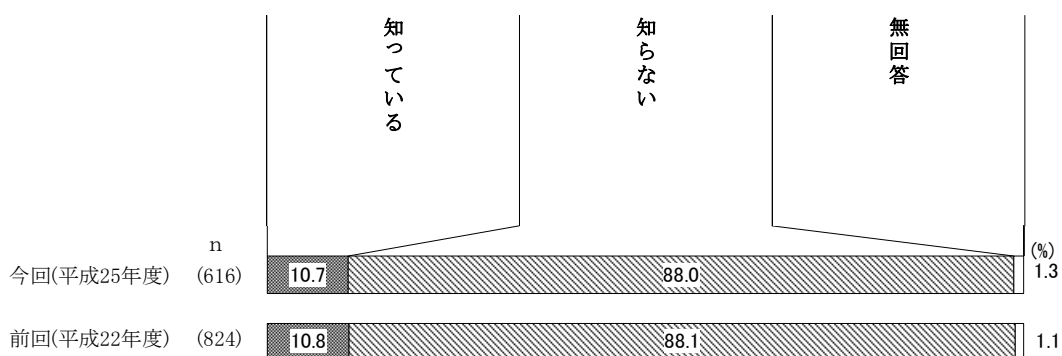


高齢者総合相談センターの機能の認知度をたずねたところ、「高齢者の総合的な相談をおこなっている」(30.0%)が3割で最も高くなっている。一方、「まったく知らない」(59.1%)は6割弱となっている。

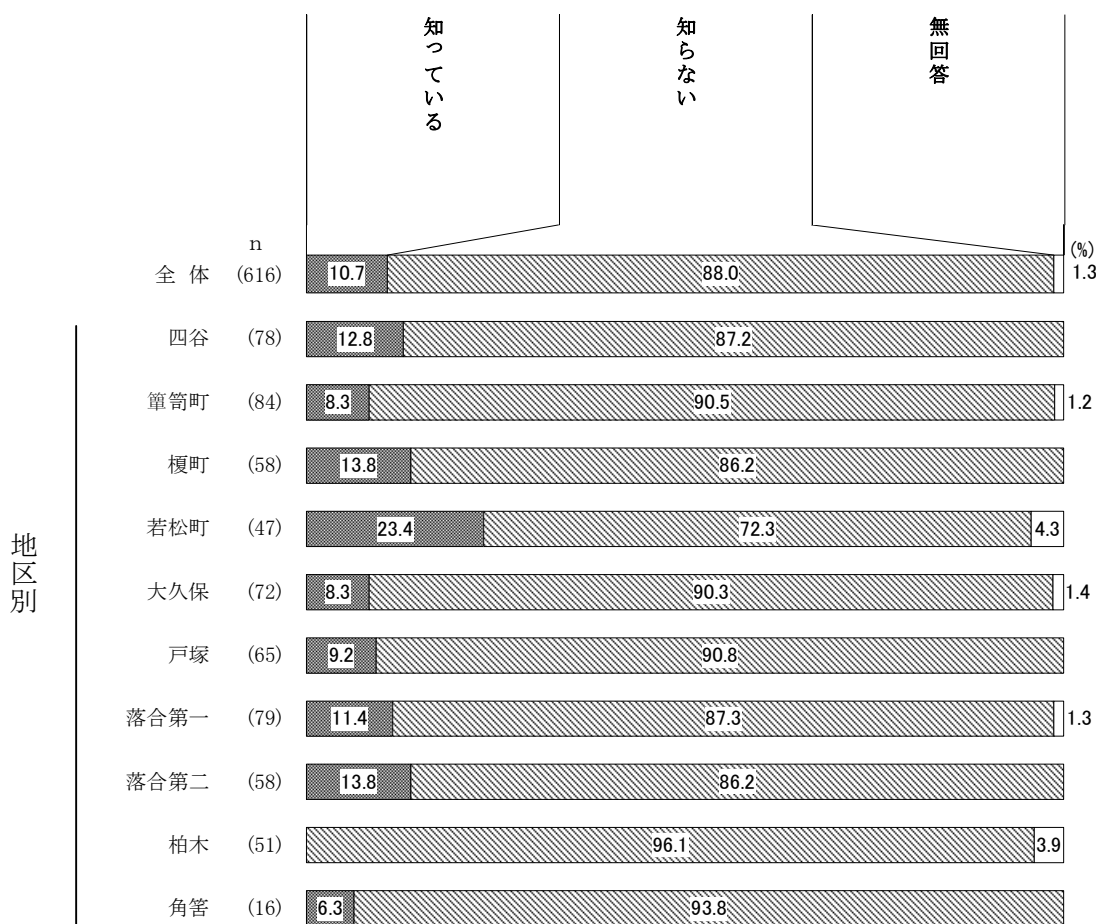
③高齢者総合相談センターの所在地の周知状況

問40 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

<図表 227> 高齢者総合相談センターの所在地の周知状況（経年比較）



<図表 228> 高齢者総合相談センターの所在地の周知状況（地区別）



高齢者総合相談センターの所在地の認知度をたずねたところ、「知っている」(10.7%)は約1割、「知らない」(88.0%)は9割近くとなっている。

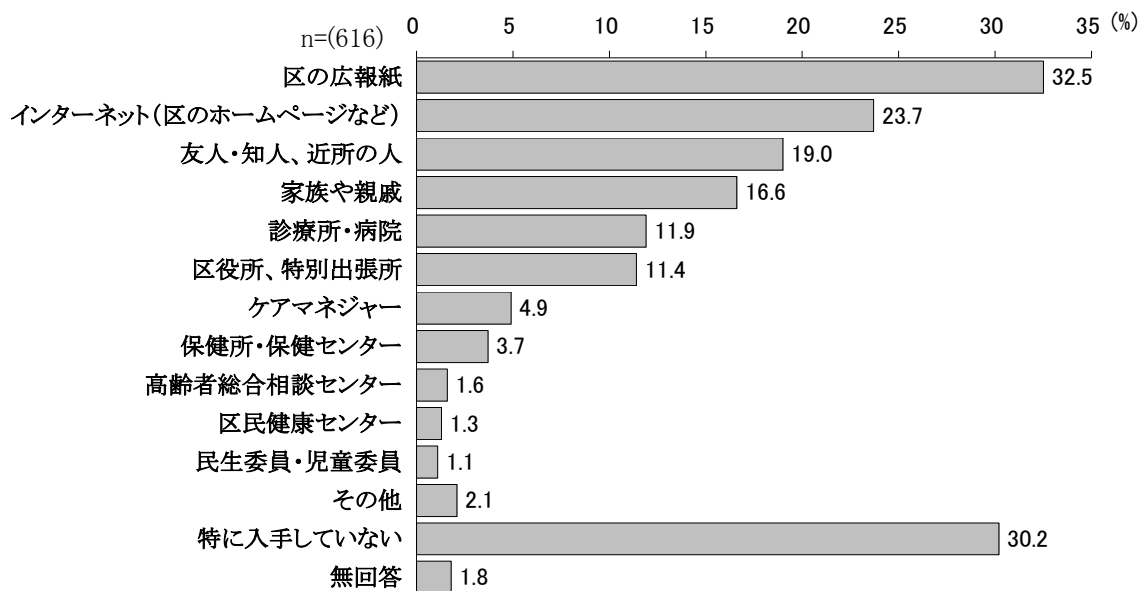
経年比較でみると、前回調査と大きな差は見られない。

地区別でみると、「知っている」は、若松町(23.4%)で2割台半ば近くと、高くなっている。

④健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

問41 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 229> 健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

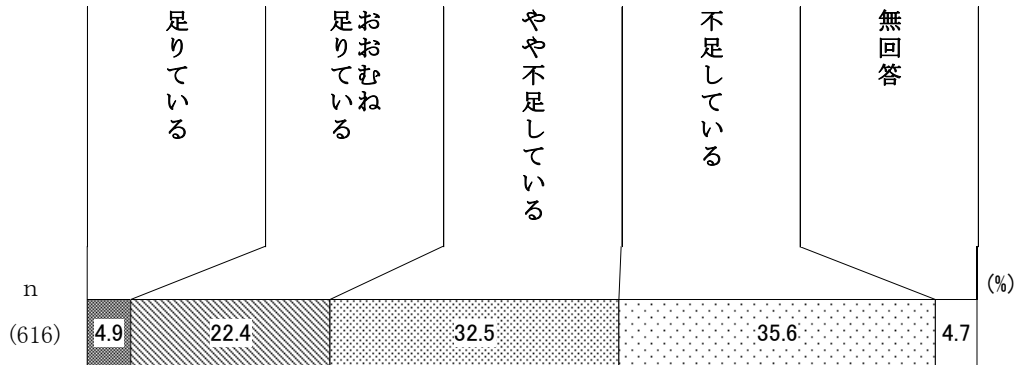


健康や福祉サービスに関する情報の入手手段をたずねたところ、「区の広報紙」(32.5%)が3割強で最も高くなっている。次いで、「インターネット(区のホームページなど)」(23.7%)が2割台半ば近く、「友人・知人、近所の人」(19.0%)が2割弱となっている。

⑤健康や福祉サービスに関する情報量の充実度

問42 あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。
(1つに○)

<図表 230> 健康や福祉サービスに関する情報量の充実度

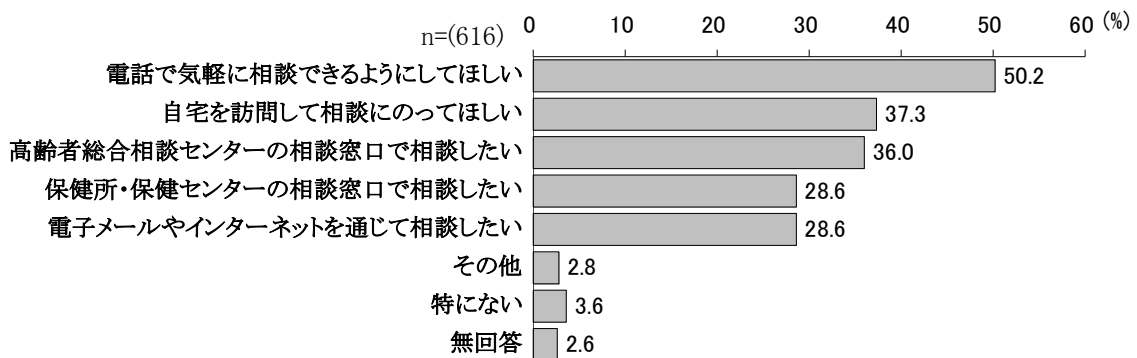


入手している健康や福祉サービスに関する情報量の充実度をたずねたところ、「不足している」(35.6%)が3割台半ばと最も高く、次いで、「やや不足している」(32.5%)が3割強、「おおむね足りている」(22.4%)が2割強となっている。

⑥介護が必要になった場合の相談体制

問43 あなたに介護が必要になった場合、どのような相談体制を望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表 231> 介護が必要になった場合の相談体制



介護が必要になった場合に望む相談体制をたずねたところ、「電話で気軽に相談できるようにしてほしい」(50.2%)が約5割と最も高く、次いで、「自宅を訪問して相談にのってほしい」(37.3%)、「高齢者総合相談センターの相談窓口で相談したい」(36.0%)がそれぞれ3割台半ばを超える。

⑦高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問44 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、172人からの回答があった。回答の多かった内容は、「情報提供・相談について」「施策全般について」「介護保険・サービスについて」の順であった。

各事項（その他除く）について、以下にいくつかの意見を示す。

情報提供・相談について	施策全般について	介護保険・サービスについて	施設等について	健康・介護予防について	アンケートについて	就労・地域活動について	医療・保健について	人材・ボランティアについて	認知症について	家族等介護者について	その他
45	43	37	27	19	17	12	8	8	6	5	25

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【情報提供・相談について】

- ・このアンケートによって、今まで知らなかったことに関心が持てた。
- ・高齢者総合相談センターがあることを知らなかった。相談窓口を一つにしておくことは、良いことだと思う。
- ・高齢者総合相談センターが、もっと身近に感じられ、気軽に立ち寄れる場になってほしいと思う。

【施策全般について】

- ・高齢者が増えていく中で、各年代層を越えた総合的な話し合いの場を頻繁に設け、偏りのない公平な福祉社会の充実を目指してほしい。

【介護保険・サービスについて】

- ・介護保険サービスの自己負担額が増え、サービスを受けられなくなる高齢者が増える事を懸念する。
- ・必要ない人までが要介護認定されていると感じる。一方で、本当に必要な人への認定が、なかなかされない事実もあると思っている。多くは国の制度の問題かもしれないが、区としてできる限り公正な介護認定が担保できる仕組みを整えてほしい。

【施設等について】

- ・新宿区内の介護施設の充実を希望する。介護する側、される側双方にとって自宅近くにある施設は魅力である。

【健康・介護予防について】

- ・高齢者の有職率は健康維持の大切な条件だと思う。収入を得ることも生きがいの一つであり、社会貢献にも繋がる。子育て支援等で若者の手助け等ができれば良いと思う。

【アンケートについて】

- ・アンケートに答えることによって、自分があまりにも無知だという事に気付かされた。これからは、もっと区等の情報に目を通すようにしたいと思う。

【就労・地域活動について】

- ・高齢者が安心して暮らせるまちづくりに、地域で取り組むことが必要である。

【医療・保健について】

- ・2年前に介護のため退職し、両親の介護をしてきたが、今年はじめに父親が長期入院となり、今に至っている。父親の年金を入院費に当てているが、母親も入院になると費用が心配である。

【人材・ボランティアについて】

- ・地元のボランティア活動の情報を、もっと知ることができたら参加したい。

【認知症について】

- ・一人暮らしの場合、いつ脳梗塞等で身体が不自由になったり、認知症で何も分からなくなったりするか分からない。金銭的な事もあるので「成年後見制度」について、今のうちに相談したい。
- ・認知症や病気になった時には、どんな手助けが必要になってくるのか等の情報がほしい。

【家族等介護者について】

- ・今春からホームヘルパーの時間が大幅に短縮され、ホームヘルパー、介護者ともに辛い条件だと思う。